

株式会社キーエンス

KEY_KETH_JA_20

11/2025

KV-700 ~ 8000, X - イーサ ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択.....	7
3	通信設定例	8
4	設定項目	116
5	使用可能デバイス	124
6	デバイスコードとアドレスコード	147
7	エラーメッセージ	154

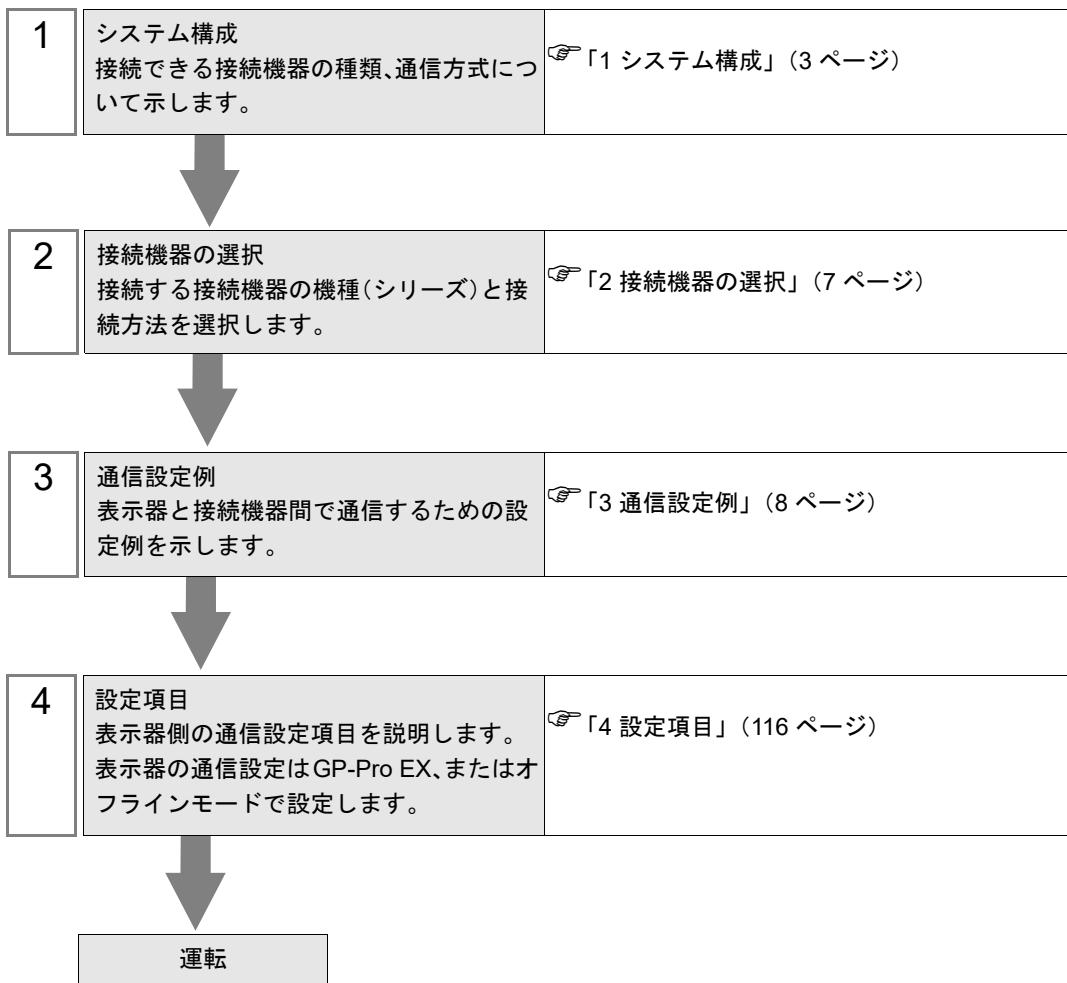
重 要

- 次の製品の販売およびメンテナンスは終了します。想定外のダウントIMEを軽減し
サイバーセキュリティを強化するために代替品のご使用をお勧めします。詳細は弊
社ホームページの「販売終了品」をご確認ください。
サポートされない機種(GP-Pro EX 5.00以降) : GP3000シリーズ、GP-4100シリーズ
(モノクロモデル)、LT3000シリーズ、ST3000シリーズ、PLシリーズ、PE4000シ
リーズ、PS2000/3000/4000シリーズ
- ドライバーがサポートしている機種の詳細は、弊社ホームページの「つながる機器
一覧」をご確認ください。
<http://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1064.html>

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

(株) キーエンス製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
KV-700 シリーズ	KV-700	KV-LE20A	イーサネット (UDP)	設定例 1 (8 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 2 (11 ページ)
	KV-1000	KV-LE20V *1	イーサネット (UDP)	設定例 5 (20 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 6 (23 ページ)
KV-1000 シリーズ	KV-1000	KV-LE20A	イーサネット (UDP)	設定例 3 (14 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 4 (17 ページ)
	KV-3000	KV-LE20V *1	イーサネット (UDP)	設定例 5 (20 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 6 (23 ページ)
KV-3000 シリーズ	KV-3000	KV-LE20V *1	イーサネット (UDP)	設定例 7 (26 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 8 (29 ページ)
KV-5000 シリーズ	KV-5000	KV-LE20V *1	イーサネット (UDP)	設定例 7 (26 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 8 (29 ページ)
		CPU 上のイーサネットポート *1	イーサネット (UDP)	設定例 9 (32 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 10 (35 ページ)
KV-5500 シリーズ	KV-5500	KV-LE21V *2	イーサネット (UDP)	設定例 11 (38 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 12 (41 ページ)
	KV-5500	CPU 上のイーサネットポート *2	イーサネット (UDP)	設定例 13 (44 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 14 (47 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
KV-7000 シリーズ	KV-7300 ^{*3}	KV-LE20V	イーサネット (UDP)	設定例 15 (50 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 16 (53 ページ)
		KV-LE21V	イーサネット (UDP)	設定例 15 (50 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 16 (53 ページ)
		KV-EP21V	イーサネット (UDP)	設定例 21 (68 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 22 (71 ページ)
		KV-XLE02	イーサネット (UDP)	設定例 23 (74 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 24 (77 ページ)
	KV-7500 ^{*3}	KV-LE20V	イーサネット (UDP)	設定例 15 (50 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 16 (53 ページ)
		KV-LE21V	イーサネット (UDP)	設定例 15 (50 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 16 (53 ページ)
		KV-EP21V	イーサネット (UDP)	設定例 21 (68 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 22 (71 ページ)
		CPU 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	設定例 17 (56 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 18 (59 ページ)
		KV-XLE02	イーサネット (UDP)	設定例 23 (74 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 24 (77 ページ)
KV-Nano シリーズ	KV-NC32T KV-N14□□ KV-N24□□ KV-N40□□ KV-N60□□	KV-NC1EP ^{*4}	イーサネット (UDP)	設定例 19 (62 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 20 (65 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
KV-8000 シリーズ	KV-8000 ^{*5}	KV-LE20V	イーサネット (UDP)	設定例 25 (80 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 26 (83 ページ)
		KV-LE21V	イーサネット (UDP)	設定例 25 (80 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 26 (83 ページ)
		KV-EP21V	イーサネット (UDP)	設定例 27 (86 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 28 (89 ページ)
		CPU 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	設定例 29 (92 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 30 (95 ページ)
		KV-XLE02	イーサネット (UDP)	設定例 31 (98 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 32 (101 ページ)
KV-X series	KV-X310 KV-X520 KV-X530 KV-X550 ^{*6}	CPU 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	設定例 33 (104 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 34 (107 ページ)
		KV-XLE02	イーサネット (UDP)	設定例 35 (110 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 36 (113 ページ)

*1 通信設定には KV STUDIO Ver.4 以降のラダーソフトが必要です。

*2 通信設定には KV STUDIO Ver.6 以降のラダーソフトが必要です。

*3 通信設定には KV STUDIO Ver.8 以降のラダーソフトが必要です。

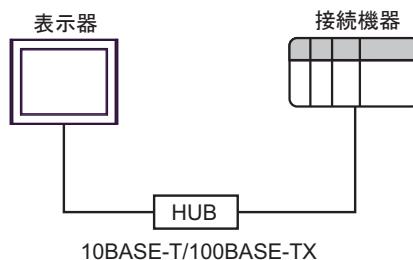
*4 通信設定には KV STUDIO Ver.7.1 以降のラダーソフトが必要です。

*5 通信設定には KV STUDIO Ver.10.0 以降のラダーソフトが必要です。

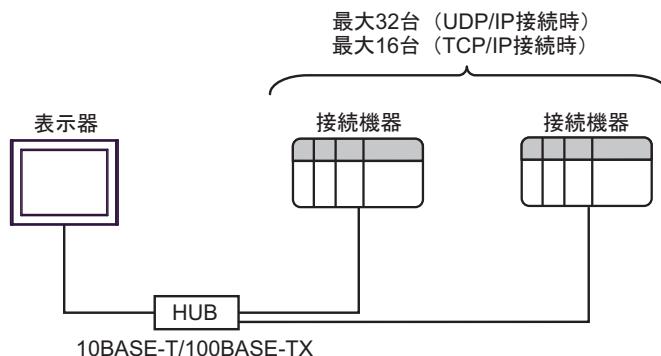
*6 通信設定には KV STUDIO Ver.12.0 以降のラダーソフトが必要です。

■ 接続構成

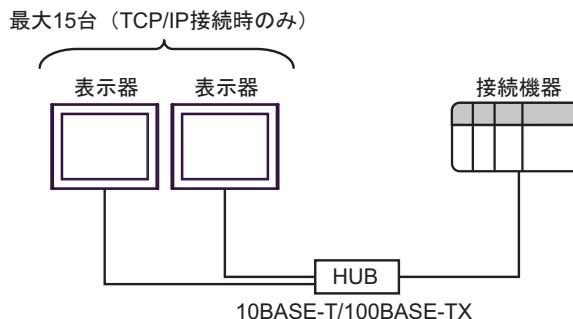
- 1 : 1 接続



- 1 : n 接続



- n : 1 接続



MEMO

- UDP/IP 接続時に接続できる表示器は 1 台のみです。

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1 ~ 4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「(株) キーエンス」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「KV-700 ~ 8000, X - イーサ」を選択します。 「KV-700 ~ 8000, X - イーサ」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 「1 システム構成」(3 ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「本体設定（システムエリア設定）の設定ガイド」 参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「本体設定・システムエリア設定」

3 通信設定例

弊社が推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

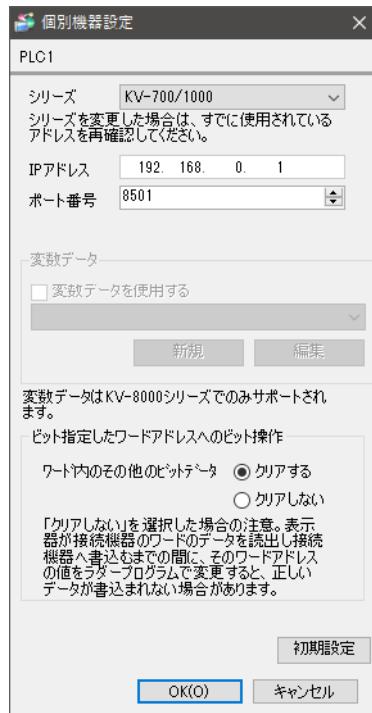
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定は設定ツール (KV BUILDER/Ver4.70) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 設定ツールを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [新規プロジェクトの作成] を選択し、プロジェクト名を付けた後、[OK] をクリックします。
- 3 [機種変更] ダイアログボックスで、拡張メモリが付いている場合は「KV-700+M」を、拡張メモリが付いていない場合は「KV-700」を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 表示されるダイアログボックスで [はい] をクリックしてユニットエディタへ移行します。
- 5 [ユニット選択 (2)] タブをクリックし、「KV-LE20A」を選択して CPU とエンドユニットの間にドラッグ & ドロップします。
- 6 KV-LE20A を選択したまま、[ユニット設定 (3)] タブに切り換えて以下のように設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10000
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 7 [ファイル] メニューから [保存して終了] を選択し、エディタモードに戻ります。
 - 8 [モニタ・シミュレータ] メニューから [変換→転送→モニタ] を選択します。
 - 9 [ユニット設定情報] をチェックし、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。
- これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

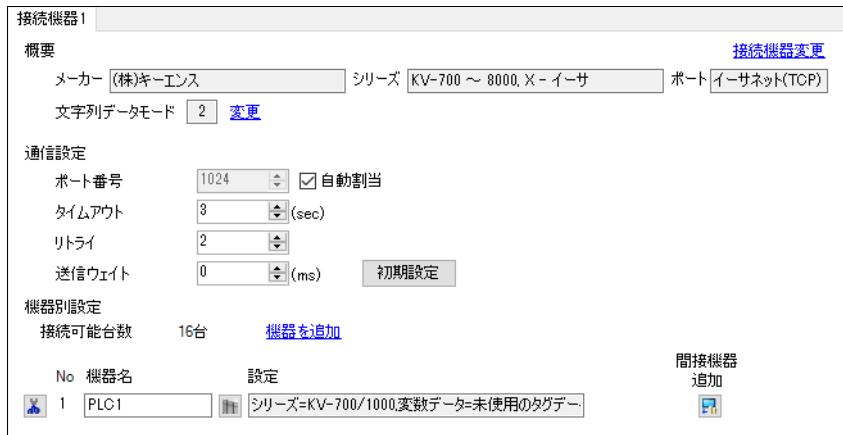
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定は設定ツール (KV BUILDER/Ver4.70) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 設定ツールを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [新規プロジェクトの作成] を選択し、プロジェクト名を付けた後、[OK] をクリックします。
- 3 [機種変更] ダイアログボックスで、拡張メモリが付いている場合は「KV-700+M」を、拡張メモリが付いていない場合は「KV-700」を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 表示されるダイアログボックスで [はい] をクリックしてユニットエディタへ移行します。
- 5 [ユニット選択 (2)] タブをクリックし、「KV-LE20A」を選択して CPU とエンドユニットの間にドラッグ & ドロップします。
- 6 KV-LE20A を選択したまま、[ユニット設定 (3)] タブに切り換えて以下のように設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10000
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 7 [ファイル] メニューから [保存して終了] を選択し、エディタモードに戻ります。
 - 8 [モニタ・シミュレータ] メニューから [変換→転送→モニタ] を選択します。
 - 9 [ユニット設定情報] をチェックし、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。
- これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

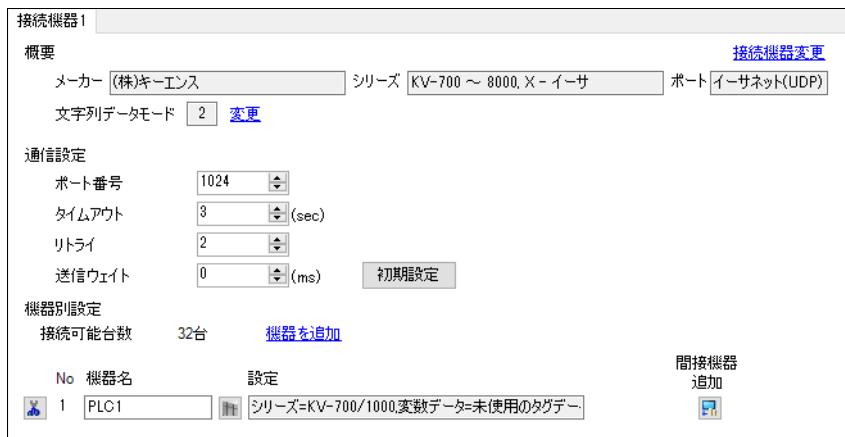
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定は設定ツール (KV STUDIO/Ver2.50) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 設定ツールを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、プロジェクト名を付けた後、[OK] をクリックします。
- 3 表示されるダイアログボックスで [はい] をクリックしてユニットエディタへ移行します。
- 4 [ユニット選択 (2)] タブをクリックし、「KV-LE20A」を選択して CPU とエンドユニットの間にドラッグ&ドロップします。
- 5 KV-LE20A を選択したまま、[ユニット設定 (3)] タブに切り換えて以下のように設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10000
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 6 [ファイル] メニューから [保存して終了] を選択し、エディタモードに戻ります。
- 7 [モニタ・シミュレータ] メニューから [変換→転送] を選択します。
- 8 [ユニット設定情報] をチェックし、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

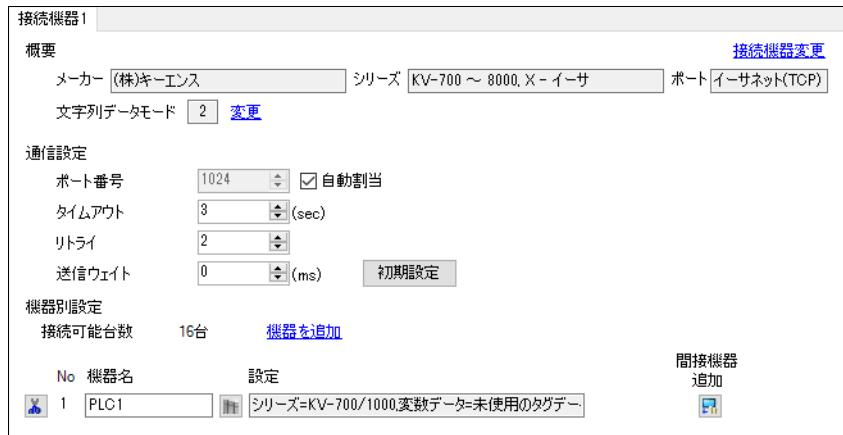
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

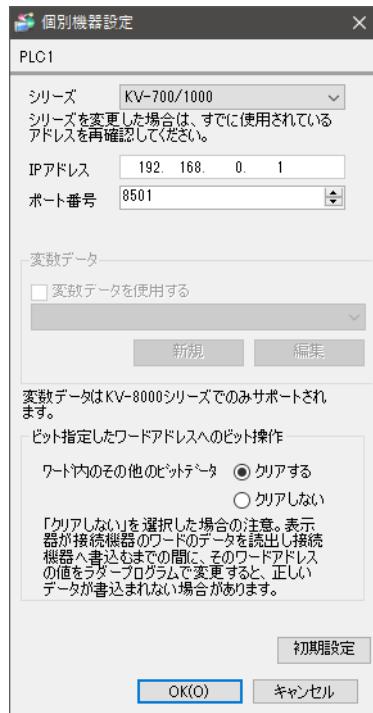
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定は設定ツール (KV STUDIO/Ver2.50) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 設定ツールを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、プロジェクト名を付けた後、[OK] をクリックします。
- 3 表示されるダイアログボックスで [はい] をクリックしてユニットエディタへ移行します。
- 4 [ユニット選択 (2)] タブをクリックし、「KV-LE20A」を選択して CPU とエンドユニットの間にドラッグ&ドロップします。
- 5 KV-LE20A を選択したまま、[ユニット設定 (3)] タブに切り換えて以下のように設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10000
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 6 [ファイル] メニューから [保存して終了] を選択し、エディタモードに戻ります。
- 7 [モニタ・シミュレータ] メニューから [変換→転送] を選択します。
- 8 [ユニット設定情報] をチェックし、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

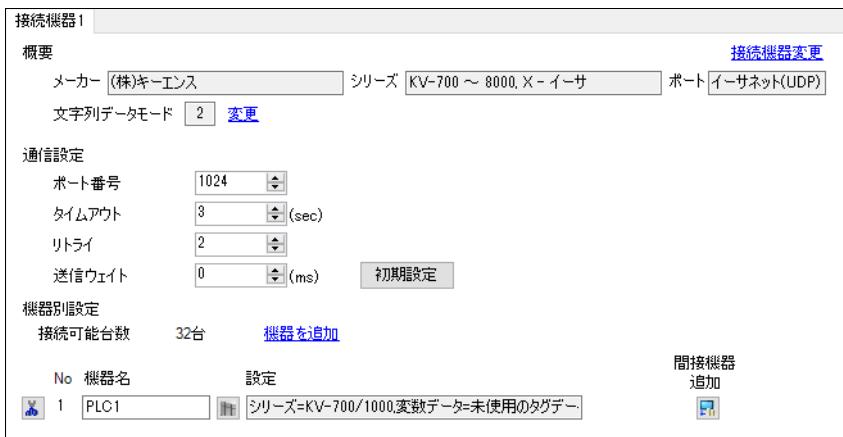
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

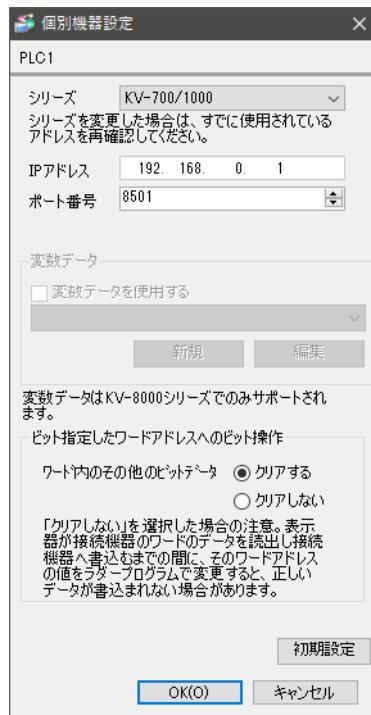
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.4 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-LE20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ＆ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE20V」を右クリックし、[ユニット設定の表示] を選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10100
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [Yes] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 12 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

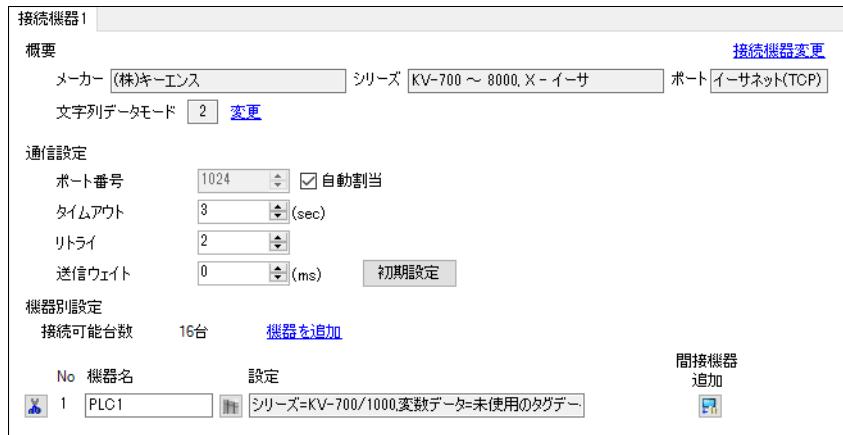
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

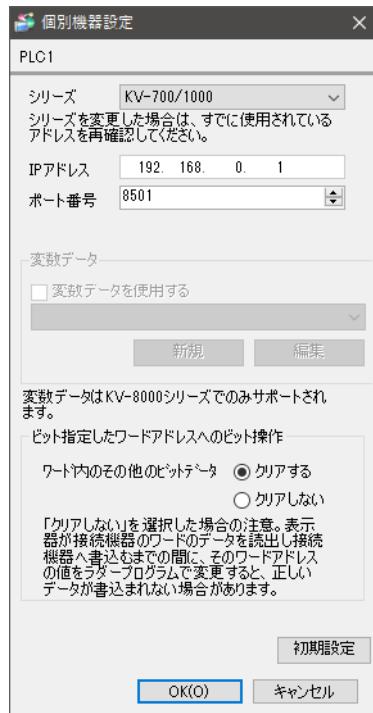
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.4 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-LE20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ＆ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE20V」を右クリックし、[ユニット設定の表示] を選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10100
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [Yes] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 12 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

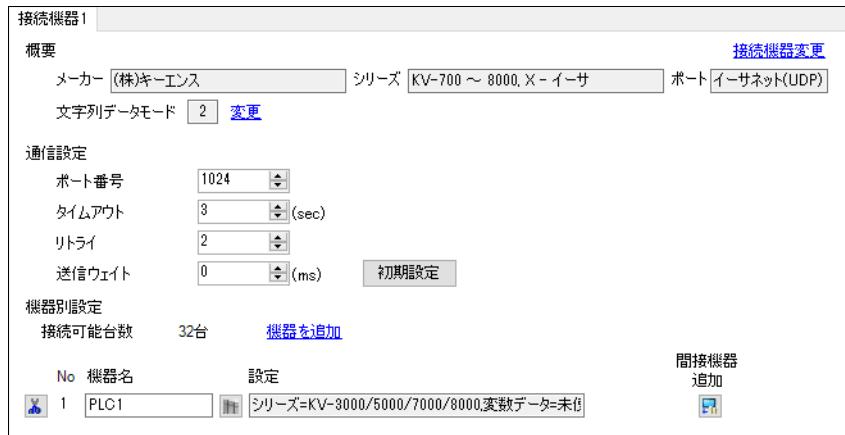
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.7 設定例 7

■ GP-Pro EX の設定

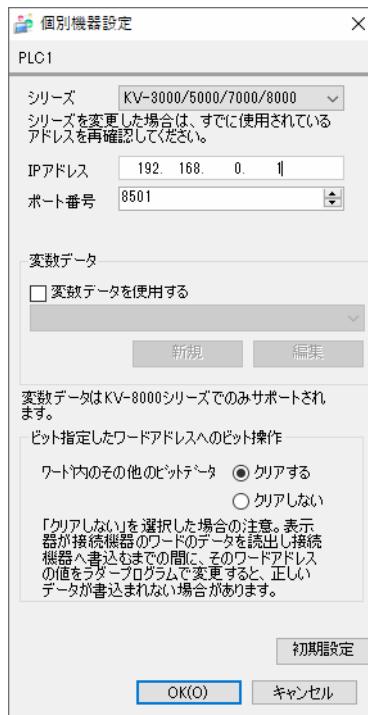
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.4 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-LE20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ＆ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE20V」を右クリックし、[ユニット設定の表示] を選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10100
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [Yes] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 12 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.8 設定例 8

■ GP-Pro EX の設定

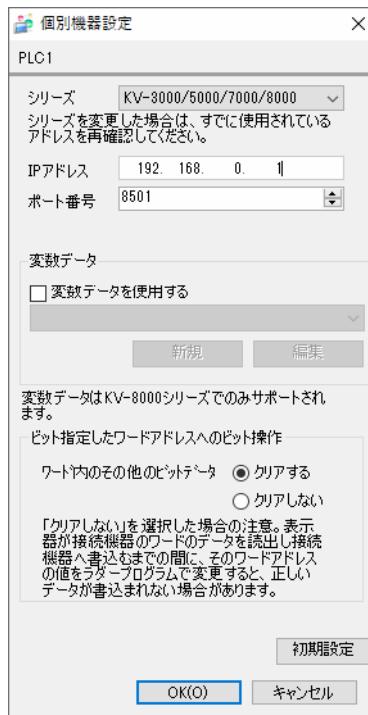
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.4 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択] タブのユニット一覧から「KV-LE20V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ＆ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE20V」を右クリックし、[ユニット設定の表示] を選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM10100
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [Yes] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 12 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

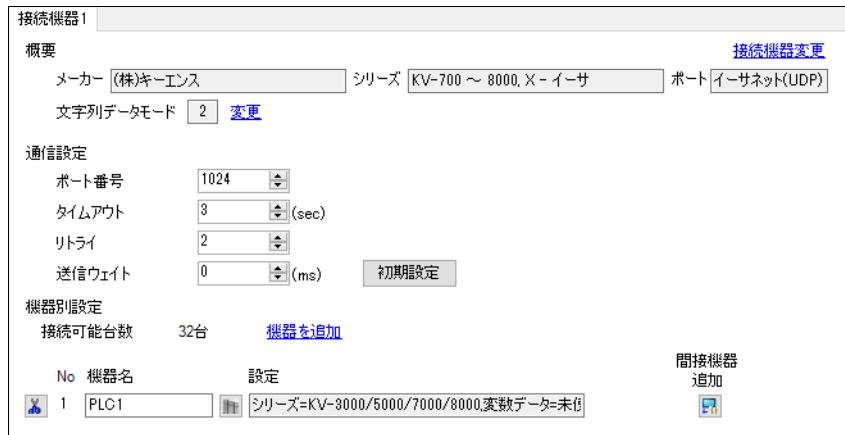
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.9 設定例 9

■ GP-Pro EX の設定

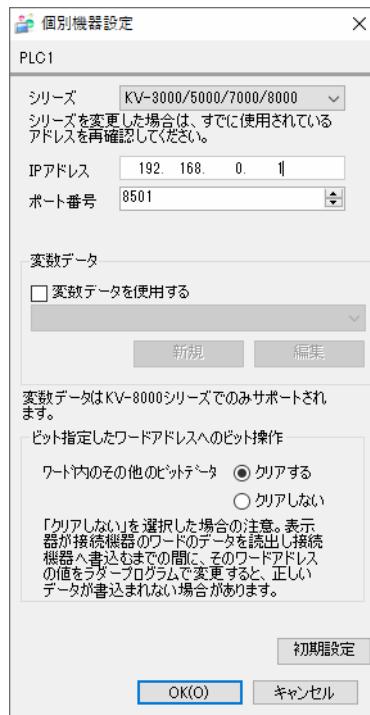
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.4 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの「KV-5000」を右クリックし、[ユニット設定の表示] を選択します。
- 6 [通信モード] で「イーサネット」を選択し、以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM0
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 7 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [Yes] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 11 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.10 設定例 10

■ GP-Pro EX の設定

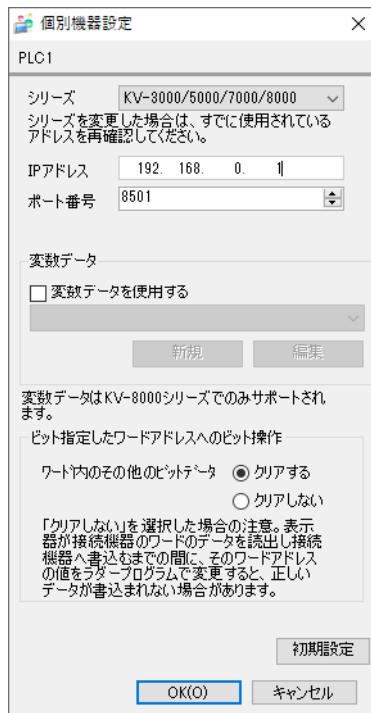
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.4 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの「KV-5000」を右クリックし、[ユニット設定の表示] を選択します。
- 6 [通信モード] で「イーサネット」を選択し、以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
先頭 DM 番号	DM0
通信速度	100/10 Mbps 自動
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ポート番号 (上位リンク)	8501

- 7 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [Yes] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 11 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

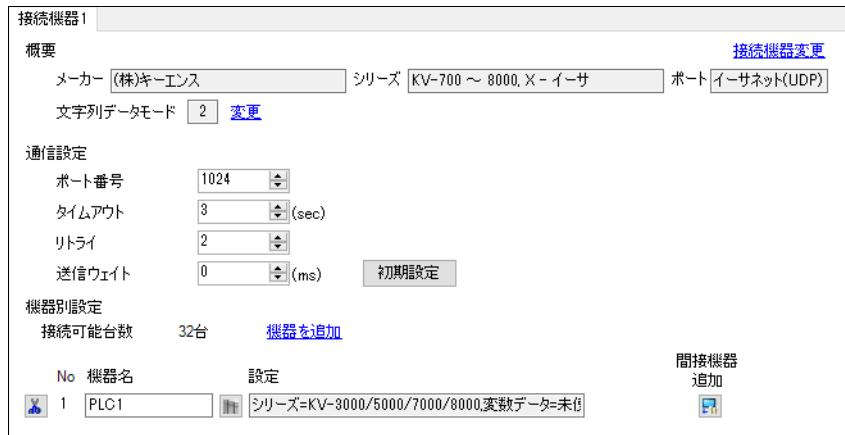
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.11 設定例 11

■ GP-Pro EX の設定

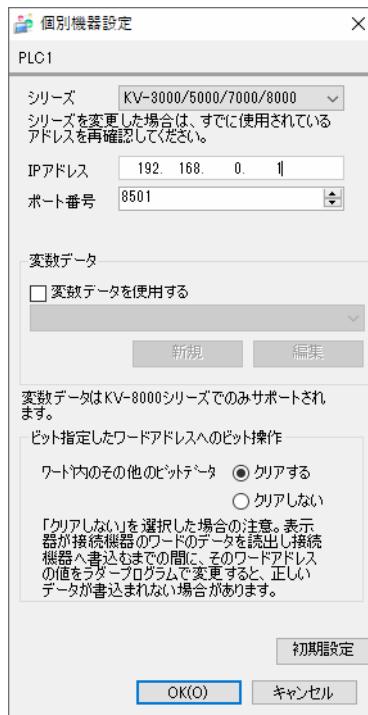
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。
- KV-5500 シリーズを使用する場合は、[シリーズ] から 「KV-3000/5000/7000/8000」 を選択してください。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.6 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-LE2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
 - 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
 - 10 [はい] をクリックします。
 - 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
 - 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
 - 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
 - 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。
- これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.12 設定例 12

■ GP-Pro EX の設定

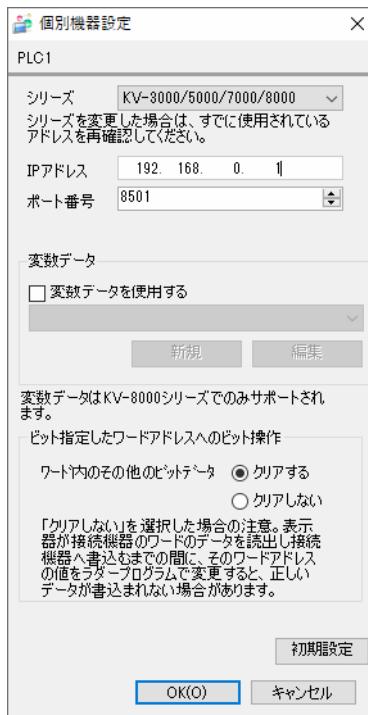
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。
- KV-5500 シリーズを使用する場合は、[シリーズ] から 「KV-3000/5000/7000/8000」 を選択してください。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.6 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-LE2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
 - 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
 - 10 [はい] をクリックします。
 - 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
 - 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
 - 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
 - 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。
- これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

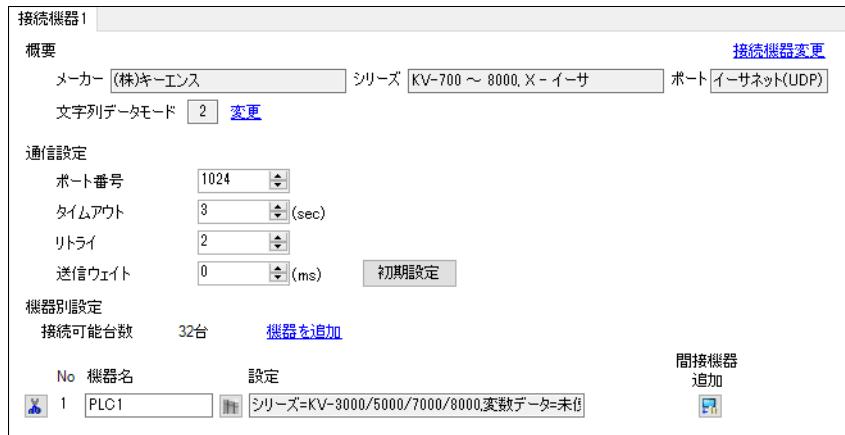
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.13 設定例 13

■ GP-Pro EX の設定

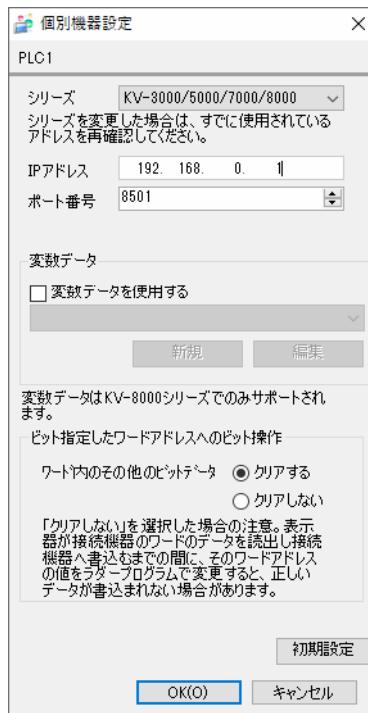
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。
- KV-5500 シリーズを使用する場合は、[シリーズ] から 「KV-3000/5000/7000/8000」 を選択してください。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.6 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの「KV-5500」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0

- 7 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [はい] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 12 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.14 設定例 14

■ GP-Pro EX の設定

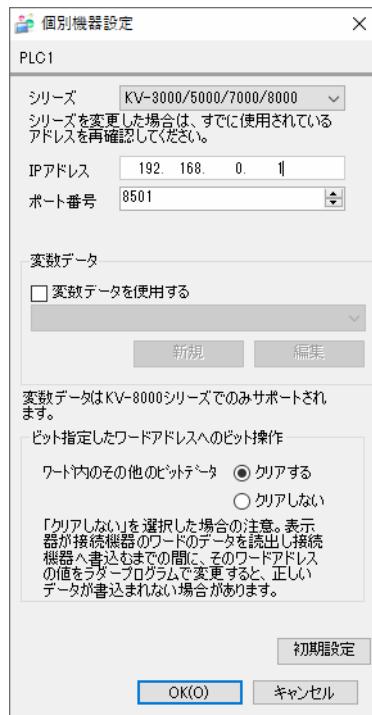
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。
- KV-5500 シリーズを使用する場合は、[シリーズ] から 「KV-3000/5000/7000/8000」 を選択してください。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.6 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの「KV-5500」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0

- 7 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [はい] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 12 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

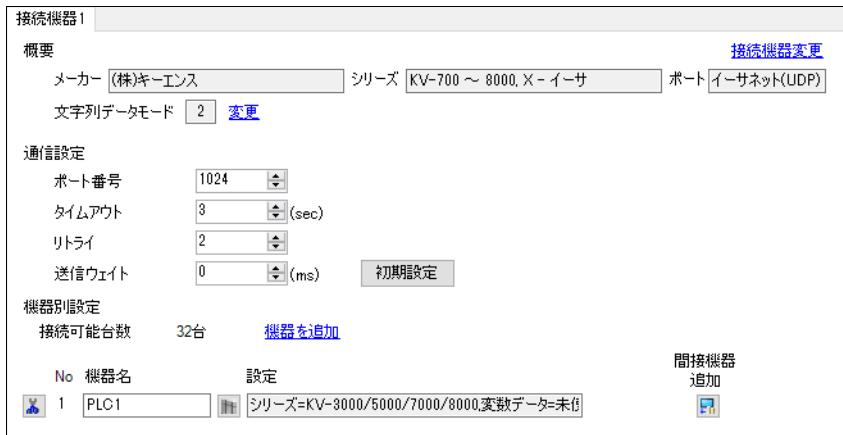
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.15 設定例 15

■ GP-Pro EX の設定

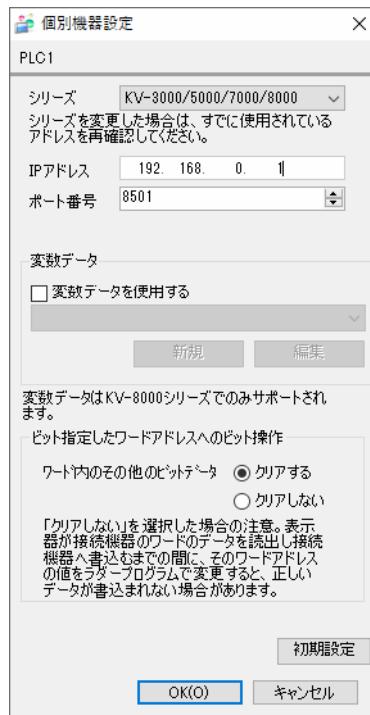
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-LE2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.16 設定例 16

■ GP-Pro EX の設定

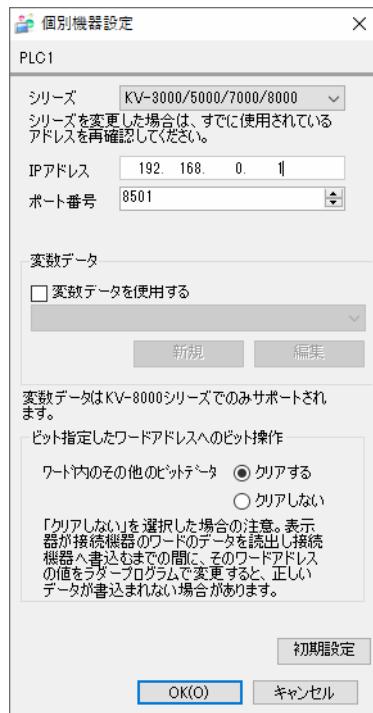
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-LE2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

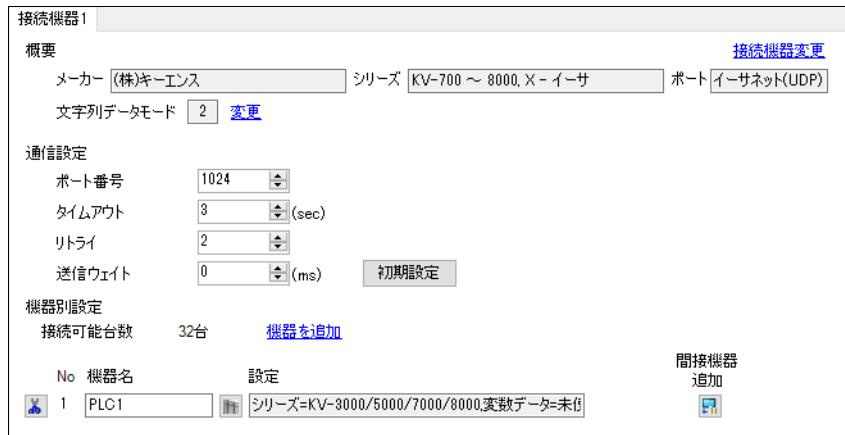
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.17 設定例 17

■ GP-Pro EX の設定

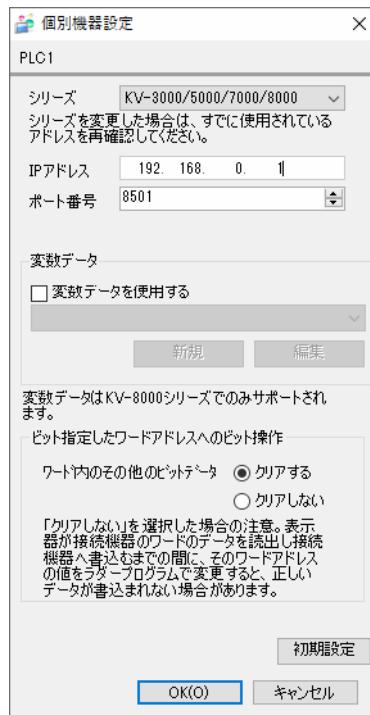
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの CPU をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 7 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
 - 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
 - 9 [はい] をクリックします。
 - 10 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
 - 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
 - 12 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
 - 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。
- これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.18 設定例 18

■ GP-Pro EX の設定

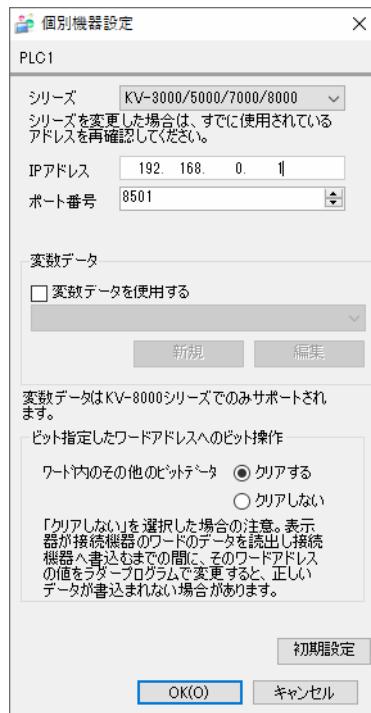
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの CPU をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 7 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
 - 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
 - 9 [はい] をクリックします。
 - 10 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
 - 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
 - 12 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
 - 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。
- これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

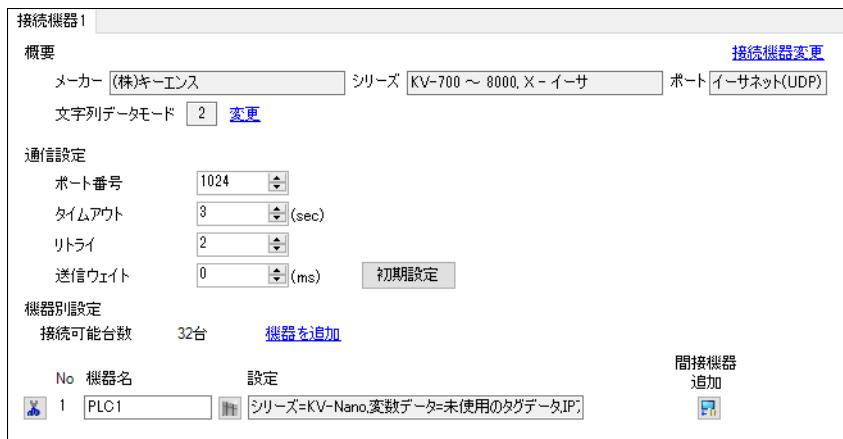
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.19 設定例 19

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-NC1EP」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-NC1EP」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

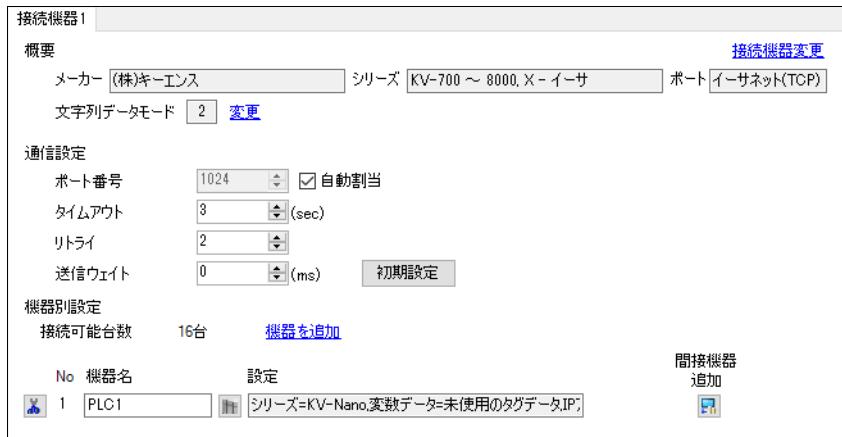
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.20 設定例 20

■ GP-Pro EX の設定

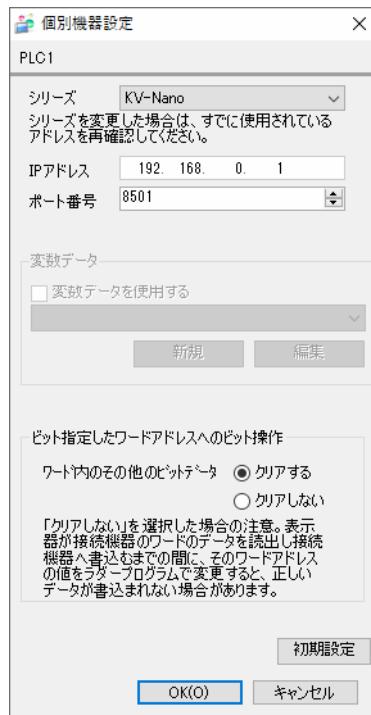
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-NC1EP」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-NC1EP」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

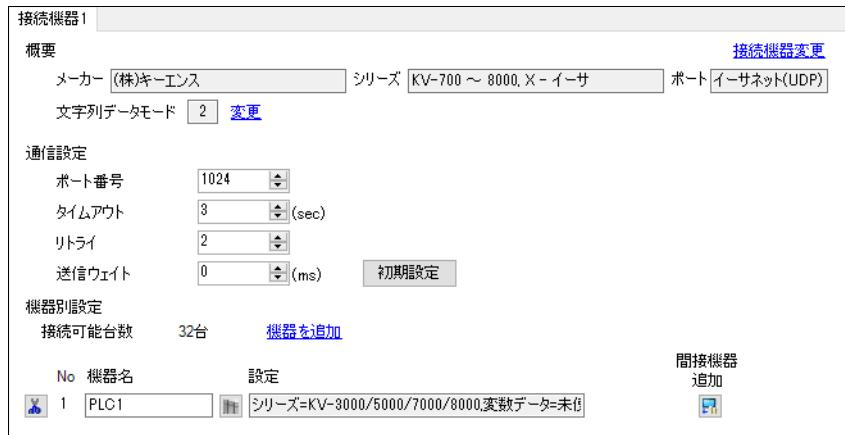
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.21 設定例 21

■ GP-Pro EX の設定

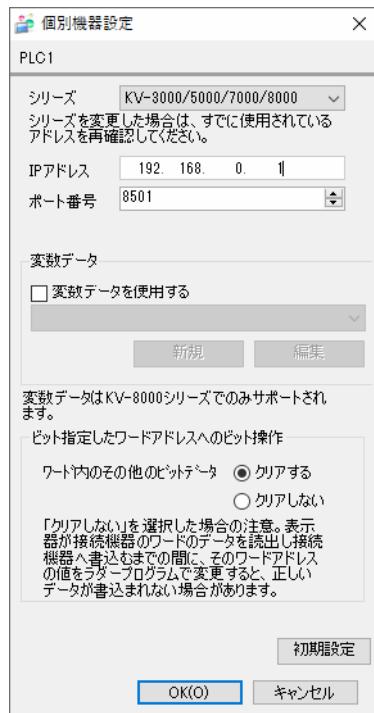
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-EP2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-EP2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.22 設定例 22

■ GP-Pro EX の設定

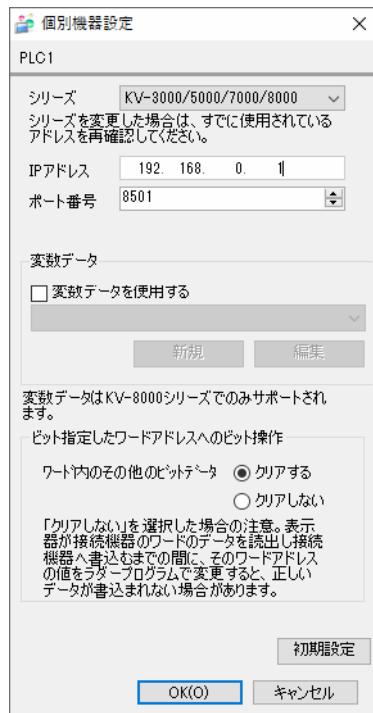
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-EP2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-EP2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

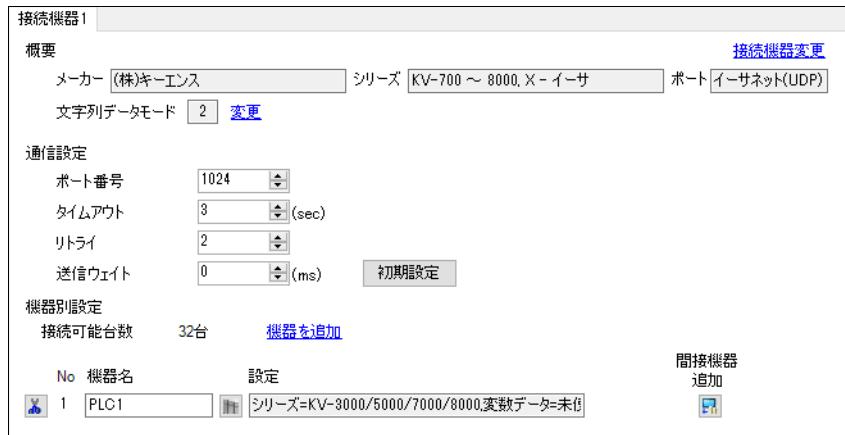
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.23 設定例 23

■ GP-Pro EX の設定

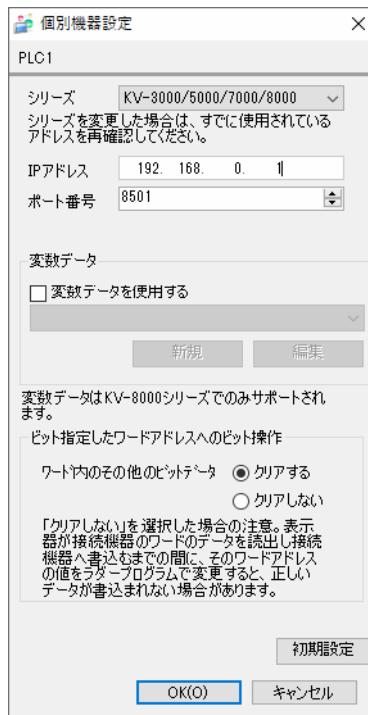
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.9.44 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-XLE02」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-XLE02」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	600
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.24 設定例 24

■ GP-Pro EX の設定

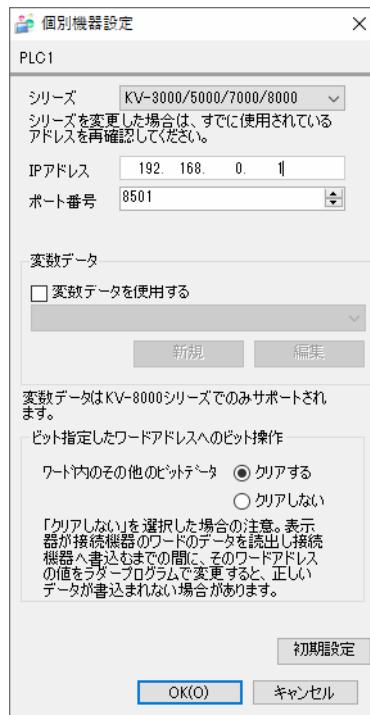
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.9.44 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-XLE02」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-XLE02」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	600
ポート番号(上位リンク)	8501

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

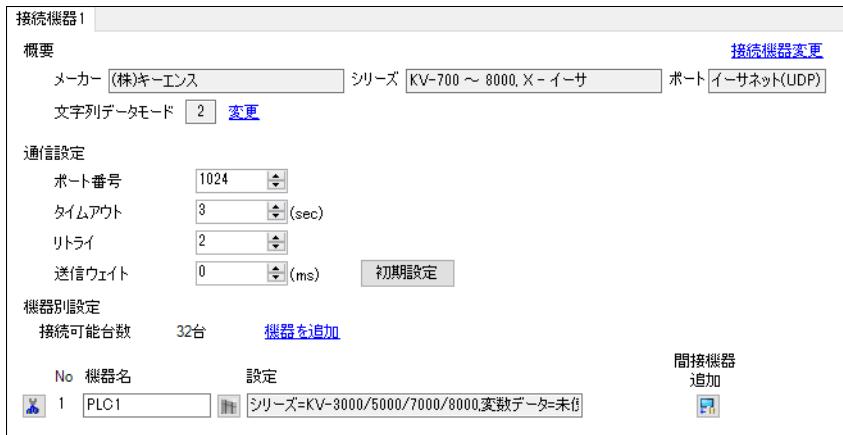
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.25 設定例 25

■ GP-Pro EX の設定

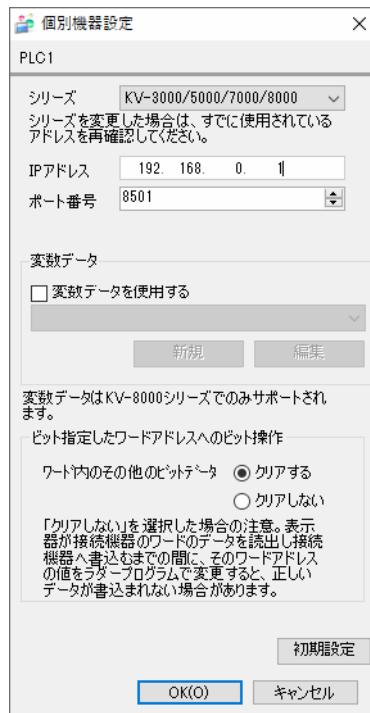
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8502」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択 (1)] タブのユニット一覧から「KV-LE2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE2*V」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (VT) ^{*1}	8502

*1 変数データ (シンボルアドレス) を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.26 設定例 26

■ GP-Pro EX の設定

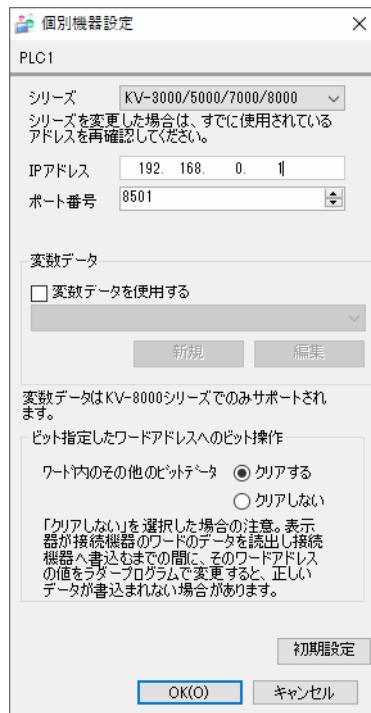
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8500」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-LE2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-LE2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501
ポート番号 (KVS, KV, COM+, DB) ^{*1}	8500

*1 変数データ(シンボルアドレス)を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

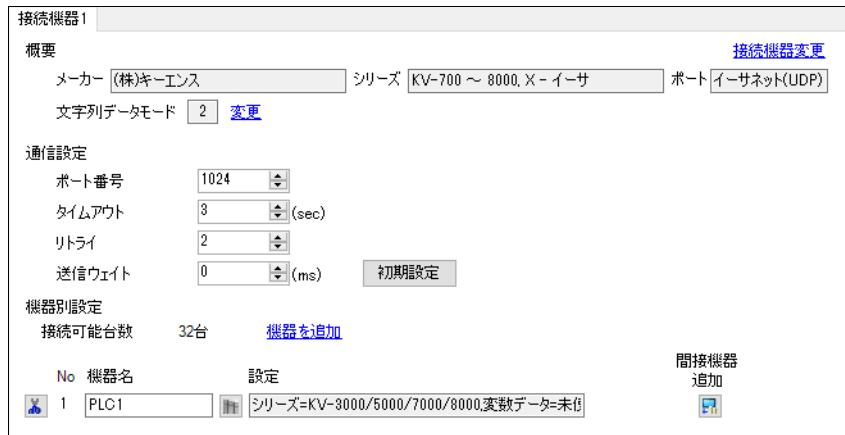
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.27 設定例 27

■ GP-Pro EX の設定

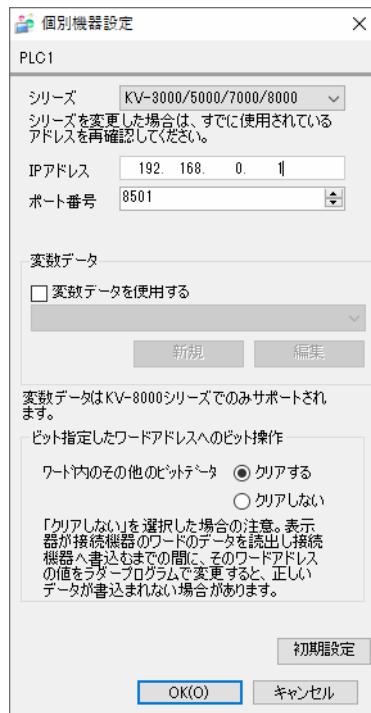
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8502」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-EP2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-EP2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501
ポート番号(VT) ^{*1}	8502

*1 変数データ(シンボルアドレス)を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.28 設定例 28

■ GP-Pro EX の設定

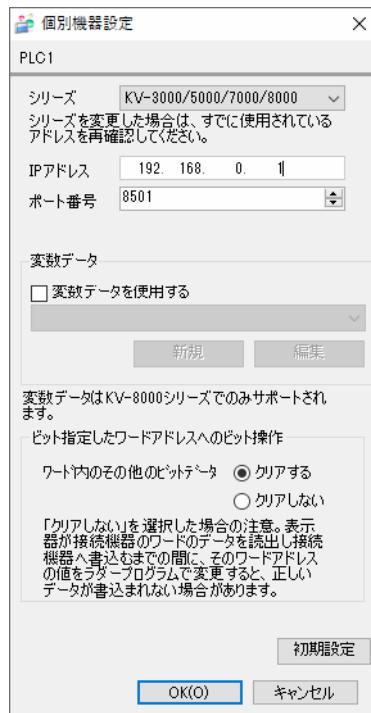
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8500」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択(1)] タブのユニット一覧から「KV-EP2*V」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-EP2*V」をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501
ポート番号 (KVS, KV, COM+, DB) ^{*1}	8500

*1 変数データ(シンボルアドレス)を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

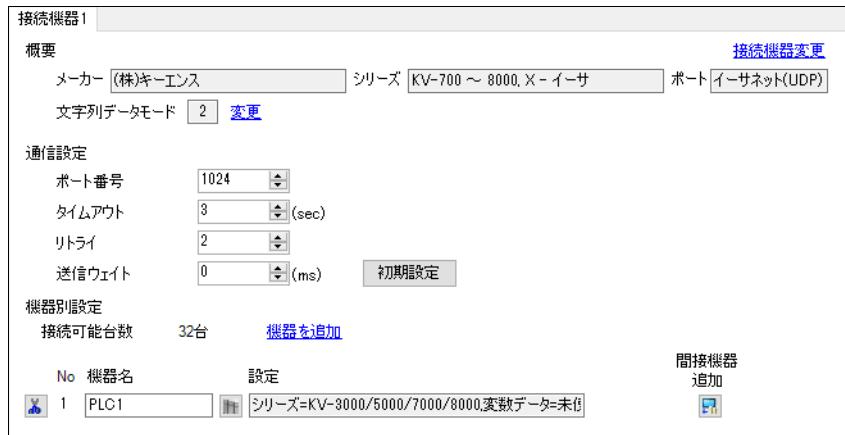
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.29 設定例 29

■ GP-Pro EX の設定

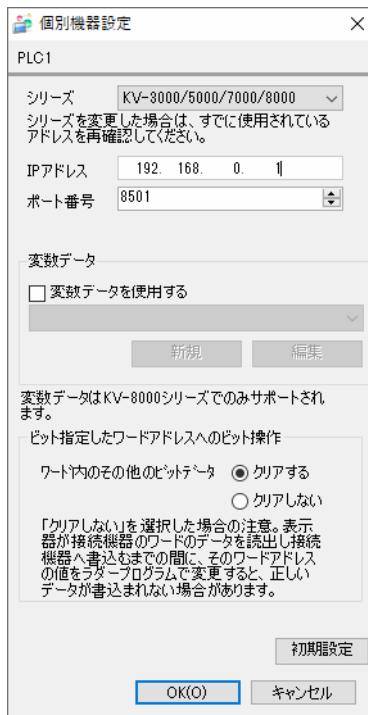
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8502」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの CPU をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (VT) ^{*1}	8502

*1 変数データ (シンボルアドレス) を使用する場合

- 7 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [はい] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 12 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.30 設定例 30

■ GP-Pro EX の設定

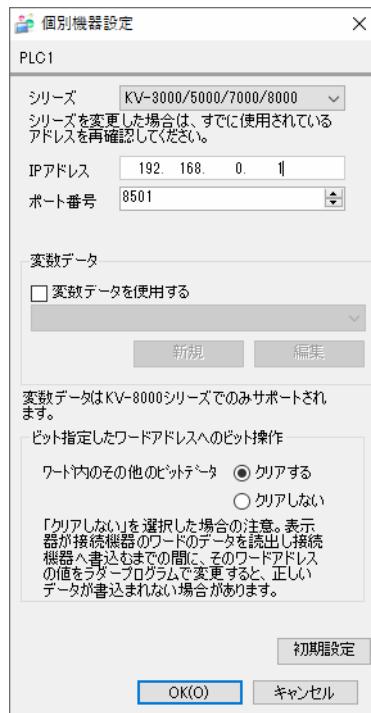
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8500」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.8 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの CPU をクリックし、[ユニット設定(2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	0
ポート番号(上位リンク)	8501
ポート番号 (KVS, KV, COM+, DB) ^{*1}	8500

*1 変数データ(シンボルアドレス)を使用する場合

- 7 [変換] メニューから [リレー/DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [はい] をクリックします。
- 10 [モニタ/シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 12 [モニタ/シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.31 設定例 31

■ GP-Pro EX の設定

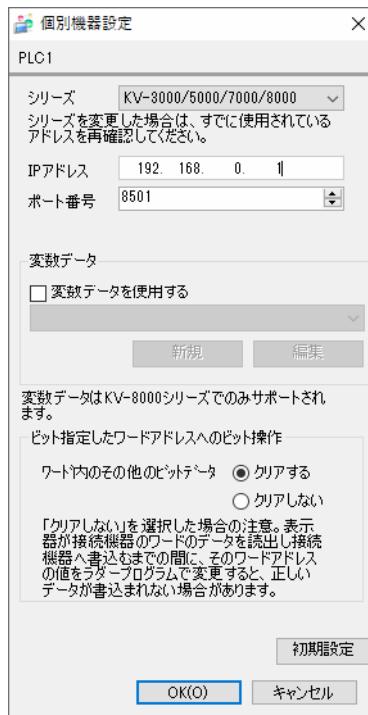
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8502」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択 (1)] タブのユニット一覧から「KV-XLE02」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-XLE02」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (VT) ^{*1}	8502

*1 変数データ（シンボルアドレス）を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.32 設定例 32

■ GP-Pro EX の設定

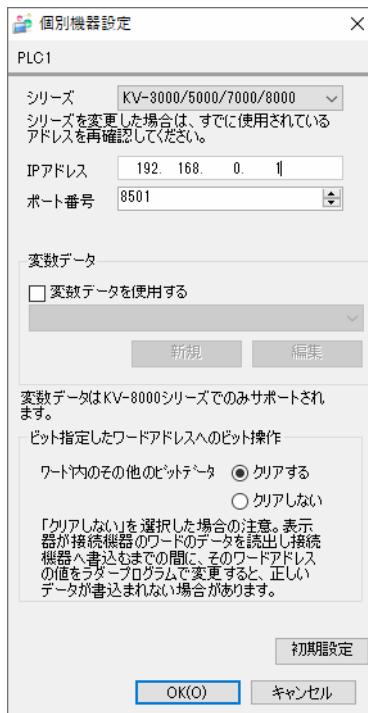
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8500」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択 (1)] タブのユニット一覧から「KV-XLE02」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-XLE02」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	600
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (KVS, KV, COM+, DB) ^{*1}	8500

*1 変数データ（シンボルアドレス）を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

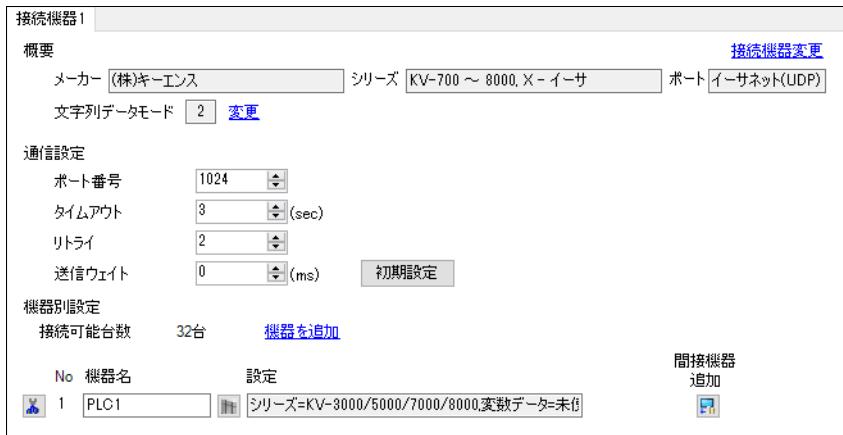
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.33 設定例 33

■ GP-Pro EX の設定

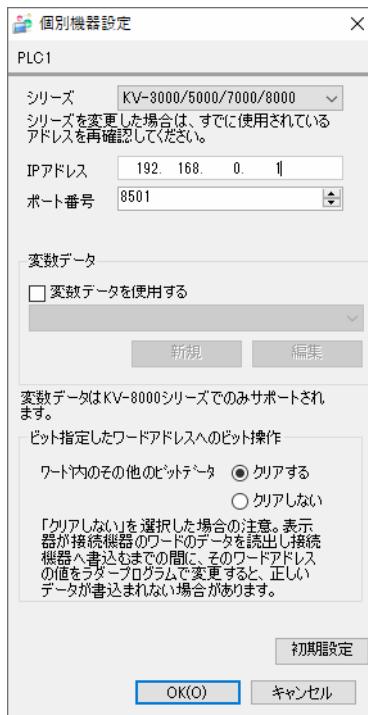
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8502」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.12.0 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの CPU をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	600
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (VT) ^{*1}	8502

*1 変数データ (シンボルアドレス) を使用する場合

- 7 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [はい] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 12 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.34 設定例 34

■ GP-Pro EX の設定

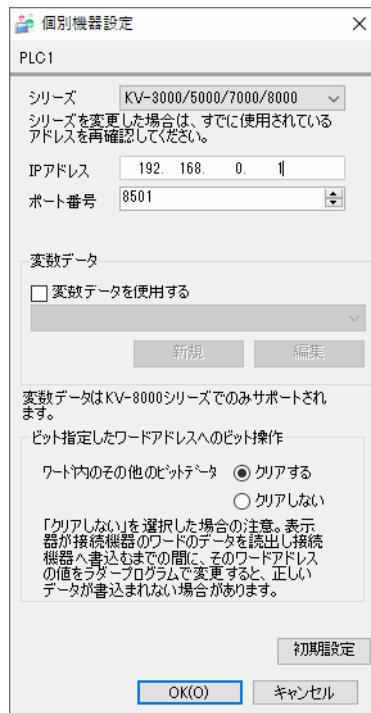
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8500」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO Ver.12.0 以降) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 ユニット配置エリアの CPU をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 6 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	600
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (KVS, KV, COM+, DB) ^{*1}	8500

*1 変数データ (シンボルアドレス) を使用する場合

- 7 [変換] メニューから [リレー / DM 自動割付] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 9 [はい] をクリックします。
- 10 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 11 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 12 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 13 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.35 設定例 35

■ GP-Pro EX の設定

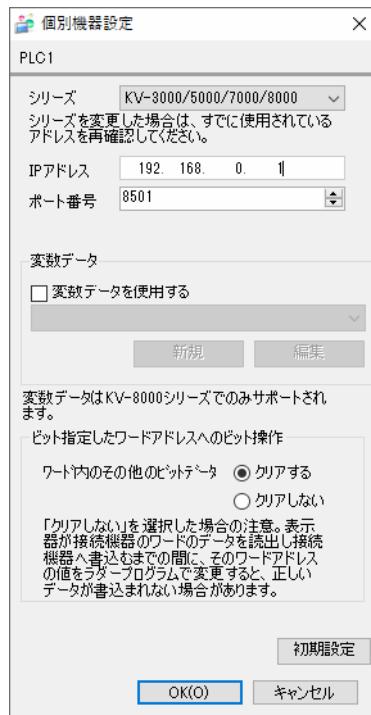
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8502」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択 (1)] タブのユニット一覧から「KV-XLE02」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-XLE02」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (VT) ^{*1}	8502

*1 変数データ（シンボルアドレス）を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.36 設定例 36

■ GP-Pro EX の設定

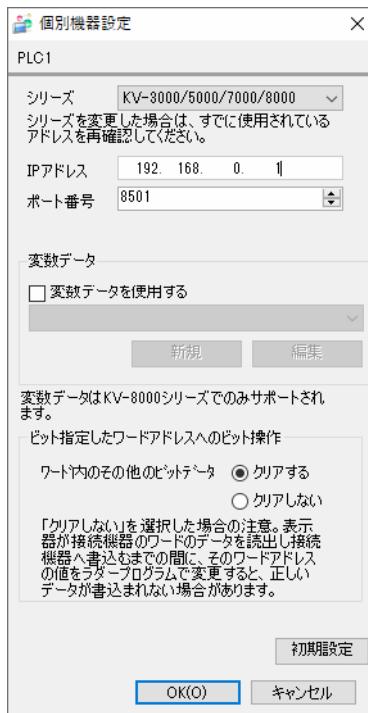
◆ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



MEMO

- 変数データを使用する場合は、ポート番号を「8500」に設定してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はラダーソフト (KV STUDIO) で設定します。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 [ファイル] メニューから [プロジェクトの新規作成] を選択し、[プロジェクト新規作成] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [プロジェクト名] に任意のプロジェクト名を入力し、[対応機種] から使用する接続機器を選択して [OK] をクリックします。
- 4 [ユニット構成設定の確認] ダイアログボックスで [はい] をクリックし、[ユニットエディタ] ウィンドウを表示します。
- 5 [ユニット選択 (1)] タブのユニット一覧から「KV-XLE02」を選択し、ユニット配置エリアにドラッグ & ドロップします。
- 6 ユニット配置エリアの「KV-XLE02」をクリックし、[ユニット設定 (2)] タブを選択します。
- 7 以下のように設定項目を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNS サーバ	0.0.0.0
キープアライブ	600
ポート番号 (上位リンク)	8501
ポート番号 (KVS, KV, COM+, DB) ^{*1}	8500

*1 変数データ（シンボルアドレス）を使用する場合

- 8 [変換] メニューから [リレー /DM 自動割付] を選択します。
- 9 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択し、[ユニットエディタ] ダイアログボックスを表示します。
- 10 [はい] をクリックします。
- 11 [モニタ / シミュレータ] メニューから [通信設定] - [通信設定] を選択し、[通信設定] ダイアログボックスを表示します。
- 12 パソコンと機器の接続を確認し、[OK] をクリックします。接続のための通信設定が行われます。
- 13 [モニタ / シミュレータ] メニューから [PLC 転送] を選択し、[プログラム転送] ダイアログボックスを表示します。
- 14 [ユニット設定情報] と [プログラム] にチェックをつけて、[実行] をクリックします。設定情報が転送されます。

これで接続機器の設定は完了です。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
- 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(8 ページ)

MEMO

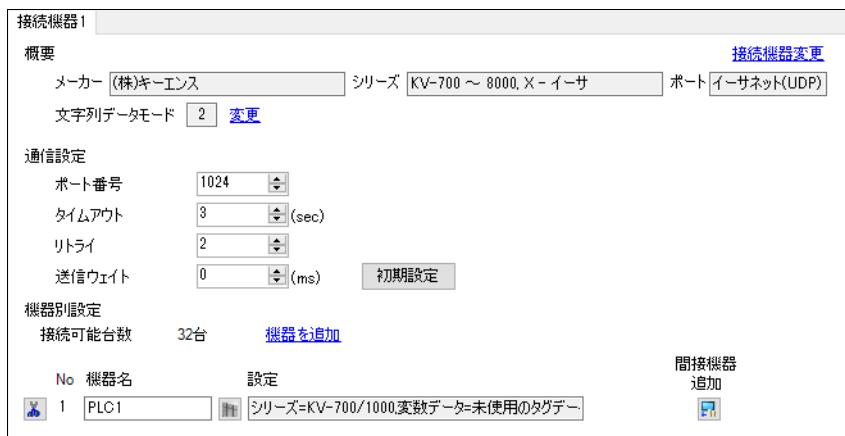
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「イーサネット設定」

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



設定項目	設定内容
ポート番号	表示器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。[自動割当] にチェックを入れた場合、ポート番号は自動で設定されます。 MEMO • [自動割当] は [接続方法] で「イーサネット (TCP)」を選択した場合のみ設定できます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。

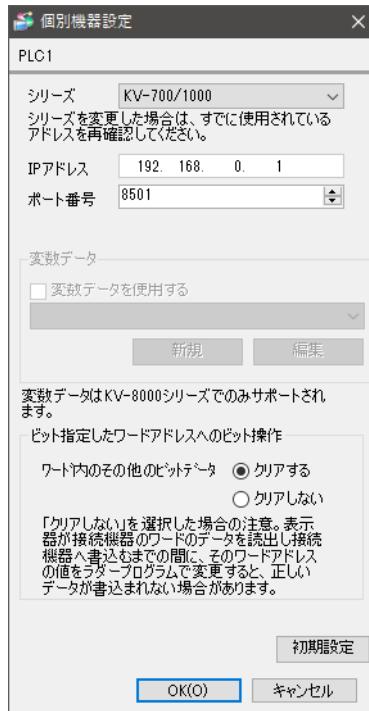
MEMO

- 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

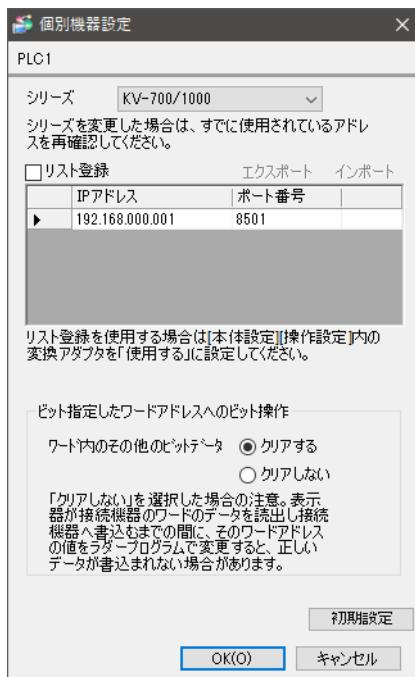


設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
ポート番号	接続機器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。 重要 <ul style="list-style-type: none"> 1つのポート番号に接続できる表示器は1台のみです。
変数データを使用する	変数データ（シンボルアドレス）を使用する場合にチェックを付け、使用する変数データを選択します。 変数データは [シリーズ] で「KV-3000/5000/7000/8000」または「KV-X300/500」を選択した場合に使用できます。 新規に変数データを作成する、または既存の変数データを更新する場合は [新規] を選択します。 既存の変数データに新しい変数を追加する場合は [編集] を選択します。  「■ 変数データのインポート」 (144 ページ)
ワード内のその他のビットデータ	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」「クリアしない」から選択します。

◆ ハンディタイプ GP を使用する場合

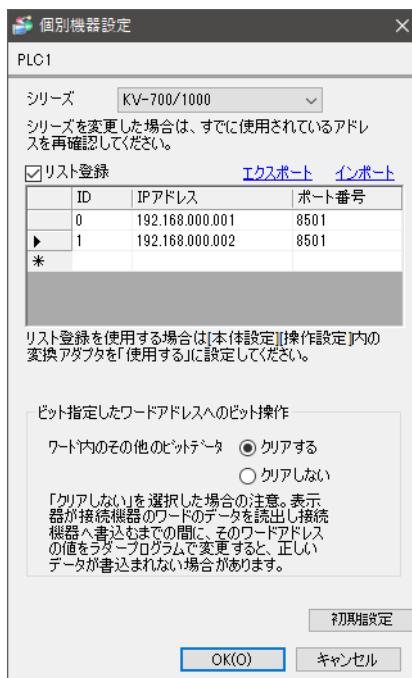
使用的する表示器がハンディタイプ GP の場合は以下の機器設定ダイアログボックスが表示されます。通信する接続機器を GP3000H 専用変換アダプタの ID 番号 (ロータリスイッチ) で切り替える場合は、リスト登録を使用する必要があります。

- ・ <リスト登録を使用しない場合>



設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。
リスト登録	[リスト登録] のチェックをはずします。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
ポート番号	接続機器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。 重 要 <ul style="list-style-type: none"> 1 つのポート番号に接続できる表示器は 1 台のみです。
ワード内のその他のビットデータ	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」「クリアしない」から選択します。

- <リスト登録を使用する場合>



設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。
リスト登録	[リスト登録]にチェックを付けます。 重要 ・ワークスペースの[システム設定ウィンドウ]から[本体設定][操作設定]タブを選択し、[変換アダプタ]の「使用する」にチェックを付けてください。
エクスポート	リストの情報をカンマ区切りの CSV ファイルでエクスポートします。 ☞「◆ 機器設定のエクスポート手順」(120 ページ)
インポート	カンマ区切りの CSV ファイルで記述されたリストの情報をインポートします。 ☞「◆ 機器設定のインポート手順」(120 ページ)
ID	GP3000H 専用変換アダプタの ID 番号（ロータリスイッチ）を「0 ~ 255」で入力します。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO ・IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。 ・同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
ポート番号	接続機器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。 重要 ・1つのポート番号に接続できる表示器は1台のみです。
ワード内のその他のビットデータ	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」「クリアしない」から選択します。

◆ 機器設定のエクスポート手順

- 1 [個別機器設定] ダイアログボックスの [エクスポート] をクリックし、[エクスポート] ダイアログボックスを表示します。
- 2 保存先ファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

◆ 機器設定のインポート手順

- 1 [個別機器設定] ダイアログボックスの [インポート] をクリックし、[インポート] ダイアログボックスを表示します。
- 2 CSV ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO

- オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

■ 通信設定

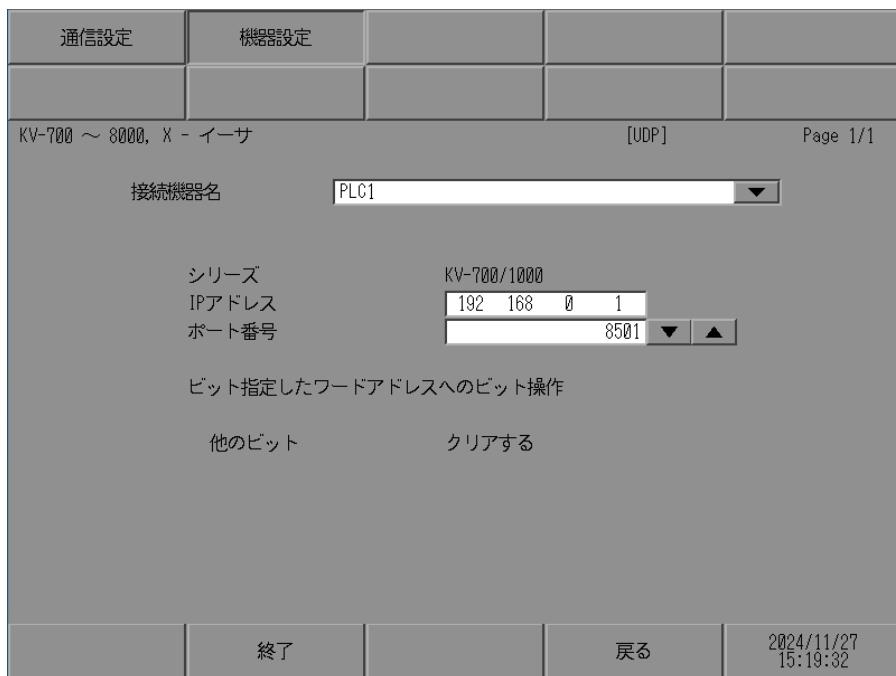
設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。



設定項目	設定内容
ポート番号	表示器のポート番号を設定します。 UDP 接続では [固定][自動] の選択に関わらず、入力したポート番号が割り当てられます。 TCP 接続では [固定][自動] のいずれかを選択します。[固定] を選択した場合は表示器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。[自動] を選択した場合は入力した値に関わらず自動的に割り当てられます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定]をタッチします。

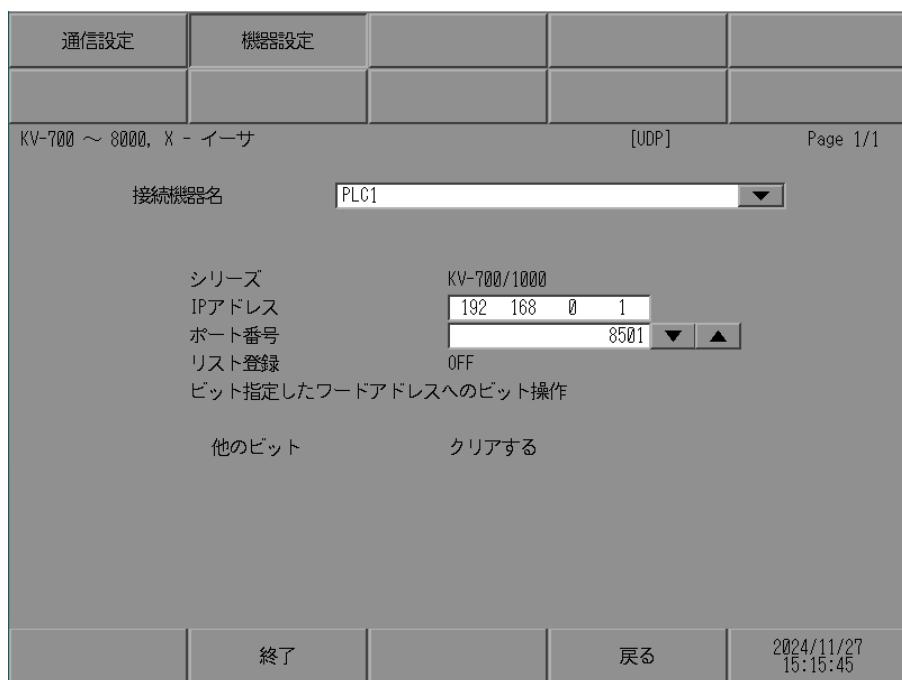


設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none">• IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。• 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
ポート番号	接続機器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。 重要 <ul style="list-style-type: none">• 1つのポート番号に接続できる表示器は 1 台のみです。
ビット指定したワードアドレスへのビット操作	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」、「クリアしない」で表示します。(オフラインモードでは設定できません。)

MEMO

- GP-4400/4500/4600 シリーズを使用している場合、機器設定画面に [リスト登録] が表示されますが、設定内容は無視されます。

◆ハンディタイプ GP を使用する場合



設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none">• IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。• 同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
ポート番号	接続機器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。 重 要 <ul style="list-style-type: none">• 1 つのポート番号に接続できる表示器は 1 台のみです。
リスト登録	リスト登録の設定を表示します。 MEMO <ul style="list-style-type: none">• オフラインモードではリスト登録の設定内容を表示、変更できません。
ビット指定したワードアドレスへのビット操作	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」、「クリアしない」で表示します。(オフラインモードでは設定できません。)

5 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

5.1 KV-700 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	00000 - 59915	000 - 599		
出力リレー				
内部補助リレー				
コントロールリレー	CR0000 - CR3915	CR00 - CR39		
タイマ(接点)	T000 - T511	----	-	
カウンタ(接点)	C000 - C511	----		
高速カウンタコンパレータ(接点)	CTC0 - CTC3	----		*1
タイマ(設定値)	----	TS000 - TS511		*2
カウンタ(設定値)	----	CS000 - CS511		*2
タイマ(現在値)	----	TC000 - TC511		*2
カウンタ(現在値)	----	CC000 - CC511		*2
データメモリ	----	DM00000 - DM39999		Bit 15 *3 *4
テンポラリデータメモリ	----	TM000 - TM511		Bit 15 *3
コントロールメモリ	----	CM0000 - CM3999		Bit 15 *3
デジタルトリマ	----	TRM0 - TRM7		*1 *2
高速カウンタ(現在値)	----	CTH0 - CTH1		*2
高速カウンタコンパレータ(設定値)	----	CTC0 - CTC3		*2

*1 書込み不可

*2 32 ビットデバイスです。

*3 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。

[クリアする] 

[クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

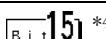
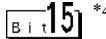
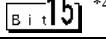
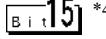
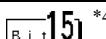
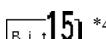
*4 DM20000 から DM39999 を使用する場合は拡張メモリを装着する必要があります。

MEMO

- ・システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」
- ・表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
☞「表記のルール」

5.2 KV-1000 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	00000 - 59915	000 - 599		*1
出力リレー				*1
内部補助リレー				*1
内部補助リレー	MR00000 - MR99915	MR000 - MR999		
ラッチリレー	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロールリレー	CR0000 - CR3915	CR00 - CR39		
タイマ(接点)	T0000 - T3999	----	-	
カウンタ(接点)	C0000 - C3999	----		
高速カウンタコンバレータ(接点)	CTC0 - CTC3	----		*2
タイマ(設定値)	----	TS0000 - TS3999		*3
カウンタ(設定値)	----	CS0000 - CS3999		*3
タイマ(現在値)	----	TC0000 - TC3999		*3
カウンタ(現在値)	----	CC0000 - CC3999		*3
データメモリ	----	DM00000 - DM65534	 *4	
拡張データメモリ	----	EM00000 - EM65534	 *4	
拡張データメモリ	----	FM00000 - FM32766	 *4	
テンポラリデータメモリ	----	TM000 - TM511	 *4	
コントロールメモリ	----	CM00000 - CM11998	 *4	
インデックスレジスター	----	Z01 - Z12	 *4 *5	
デジタルトリマ	----	TRM0 - TRM7		*2 *3
高速カウンタ(現在値)	----	CTH0 - CTH1		*3
高速カウンタコンバレータ(設定値)	----	CTC0 - CTC3		*3

*1 KV-1000 では R000 から R599 (R00000 から R59915) の範囲で示されますが、表示器では 000 から 599 (00000 から 59915) の範囲で示されます。

*2 書込み不可

*3 32 ビットデバイスです。

- *4 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] Bit 15
 [クリアしない] ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。
- *5 Z11 および Z12 は、接続機器のシステムが使用しているため書き込みできません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.3 KV-3000/5000/5500 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー				
出力リレー	R00000 - R99915	R000 - R999		
内部補助リレー				
リンクリレー	B0000 - B3FFF	B000 - B3FF		
内部補助リレー	MR00000 - MR99915	MR000 - MR999	L/H	
ラッチリレー	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロールリレー	CR0000 - CR3915	CR00 - CR39		
ワークリレー	VB0000 - VB3FFF	VB000 - VB3FF		
タイマ(接点)	T0000 - T3999	----		
カウンタ(接点)	C0000 - C3999	----	-	
高速カウンタコンバータ(接点)	CTC0 - CTC3	----		*1
タイマ(設定値)	----	TS0000 - TS3999		*2
カウンタ(設定値)	----	CS0000 - CS3999		*2
タイマ(現在値)	----	TC0000 - TC3999		*2
カウンタ(現在値)	----	CC0000 - CC3999		*2
データメモリ	----	DM00000 - DM65534	Bit 15	*3
拡張データメモリ	----	EM00000 - EM65534	Bit 15	*3
ファイルレジスタ	現バンク	----	FM00000 - FM32767	Bit 15
	シリアルナンバーシステム	----	ZF000000 - ZF131071	Bit 15
テンポラリデータメモリ	----	TM000 - TM511	L/H	Bit 15 *3
コントロールメモリ	----	CM00000 - CM05999	Bit 15	*3
リンクレジスタ	----	W0000 - W3FFF	Bit 15	*3
ワークメモリ	----	VM00000 - VM59999	Bit 15	*3
インデックスレジスタ	----	Z01 - Z12		*2 *4
デジタルトリマ	----	TRM0 - TRM7		*1 *2
高速カウンタ(現在値)	----	CTH0 - CTH1		*2
高速カウンタコンバータ(設定値)	----	CTC0 - CTC3		*2

- *1 書込み不可
- *2 32 ビットデバイスです。
- *3 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
[クリアする] **Bit 15**
[クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *4 Z11 および Z12 は、接続機器のシステムが使用しているため書込みできません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

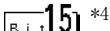
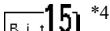
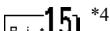
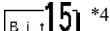
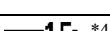
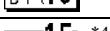
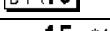
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

5.4 KV-7000 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	R000000 - R199915	R0000 - R1999		*1
出力リレー				*1
内部補助リレー				*1
リンクリレー	B0000 - B7FFF	B000 - B7FF		
内部補助リレー	MR000000 - MR399915	MR0000 - MR3999		*2
ラッチリレー	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロールリレー	CR0000 - CR7915	CR00 - CR79		
ワークリレー	VB0000 - VBF9FF	VB000 - VBF9F		
タイマ(接点)	T0000 - T3999	-----		
カウンタ(接点)	C0000 - C3999	-----		
タイマ(設定値)	-----	TS0000 - TS3999		*3
カウンタ(設定値)	-----	CS0000 - CS3999		*3
タイマ(現在値)	-----	TC0000 - TC3999		*3
カウンタ(現在値)	-----	CC0000 - CC3999		*3
データメモリ	-----	DM00000 - DM65534	 *4	
拡張データメモリ	-----	EM00000 - EM65534	 *4	
ファイル レジスタ	現バング	-----	 *4	
	シリアルナ ンバーシス テム	-----	 *4	
テンポラリデータメモリ	-----	TM000 - TM511	 *4	
コントロールメモリ	-----	CM0000 - CM5999	 *4	
リンクレジスタ	-----	W0000 - W7FFF	 *4	
ワークリメモリ	-----	VM00000 - VM50999	 *4	
インデックスレジスタ	-----	Z01 - Z12		*3 *5
デジタルトリマ	-----	TRM0 - TRM7		*3 *6

*1 CPU ファンクションバージョン 2.2 以前、または KV-EP21V/KV-LE21V/KV-LE20V を使用する場合はビットアドレスが R00000 - R99915、ワードアドレスが R000 - R999 になります。

*2 KV-EP21V および KV-LE21V、KV-LE20V を使用する場合はビットアドレスが MR00000 - MR99915、ワードアドレスが MR000 - MR999 になります。

*3 32 ビットデバイスです。

- *4 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] [B i.15]
 [クリアしない] ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。
- *5 Z11 および Z12 は、接続機器のシステムが使用しているため書き込みできません。
- *6 書込み不可

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- 参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」
- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
-  「表記のルール」

5.5 KV-Nano シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー				
出力リレー	R00000 - R99915	R000 - R999		
内部補助リレー				
リンクリレー	B0000 - B1FFF	B000 - B1FF		
内部補助リレー	MR00000 - MR59915	MR000 - MR599	L/H	
ラッチリレー	LR00000 - LR19915	LR000 - LR199		
コントロールリレー	CR0000 - CR8915	CR00 - CR89		
ワークリレー	VB0000 - VB1FFF	VB000 - VB1FF		
タイマ(接点)	T0000 - T0511	----		
カウンタ(接点)	C0000 - C0255	----	-	
高速カウンタコンバレータ(接点)	CTC0 - CTC7	----		*1
タイマ(設定値)	----	TS0000 - TS0511		*2
カウンタ(設定値)	----	CS0000 - CS0255		*2
タイマ(現在値)	----	TC0000 - TC0511		*2
カウンタ(現在値)	----	CC0000 - CC0255		*2
データメモリ	----	DM00000 - DM32767	Bit 15 *3	
テンポラリデータメモリ	----	TM000 - TM511	Bit 15 *3	
コントロールメモリ	----	CM00000 - CM08999	Bit 15 *3	
リンクレジスタ	----	W0000 - W3FFF	Bit 15 *3	
ワームメモリ	----	VM00000 - VM09499	Bit 15 *3	
インデックスレジスタ	----	Z01 - Z12	Bit 15 *4	
高速カウンタ(現在値)	----	CTH0 - CTH3		*2
高速カウンタコンバレータ(設定値)	----	CTC0 - CTC7		*2

*1 書込み不可

*2 32 ビットデバイスです。

- *3 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] [B i.15]
 [クリアしない] ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。
- *4 Z11 および Z12 は、接続機器のシステムが使用しているため書き込みできません。

MEMO

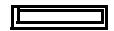
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

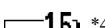
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.6 KV-8000 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	R000000 - R199915	R0000 - R1999		*1
出力リレー				*1
内部補助リレー				*1
リンクリレー	B0000 - B7FFF	B000 - B7FF		
内部補助リレー	MR000000 - MR399915	MR0000 - MR3999		*2
ラッチリレー	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロールリレー	CR0000 - CR7915	CR00 - CR79		
ワークリレー	VB0000 - VBF9FF	VB000 - VBF9F		
タイマ(接点)	T0000 - T3999	-----		
カウンタ(接点)	C0000 - C3999	-----		
タイマ(設定値)	-----	TS0000 - TS3999		*3
カウンタ(設定値)	-----	CS0000 - CS3999		*3
タイマ(現在値)	-----	TC0000 - TC3999		*3
カウンタ(現在値)	-----	CC0000 - CC3999		*3
データメモリ	-----	DM00000 - DM65534	 *4	
拡張データメモリ	-----	EM00000 - EM65534	 *4	
ファイル レジスタ	現バング	-----	 *4	
	シリアルナ ンバーシス テム	-----	 *4	
テンポラリデータメモリ	-----	TM000 - TM511	 *4	
コントロールメモリ	-----	CM0000 - CM7599	 *4	
リンクレジスタ	-----	W0000 - W7FFF	 *4	
ワークメモリ	-----	VM000000 - VM589823	 *4 *5	
インデックスレジスタ	-----	Z01 - Z12		*3 *6
デジタルトリマ	-----	TRM0 - TRM7		*3 *7

*1 KV-EP21V/KV-LE21V/KV-LE20V を使用する場合はビットアドレスが R00000 - R99915、ワードアドレスが R000 - R999 になります。

*2 KV-EP21V および KV-LE21V、KV-LE20V を使用する場合はビットアドレスが MR00000 - MR99915、ワードアドレスが MR000 - MR999 になります。

*3 32 ビットデバイスです。

- *4 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] [B i.15]
 [クリアしない] ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。
- *5 KV-EP21V および KV-LE21V, KV-LE20V を使用する場合 VM00000 ~ VM63999 の範囲となります。
- *6 Z11 および Z12 は、接続機器のシステムが使用しているため書き込みできません。
- *7 書込み不可

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.7 KV-8000 シリーズ (変数指定)

データ形		ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
BOOL	Single Tag	<TAGNAME>	-	-	*1 *2
	1D Array	<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]			
	2D Array	<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGNAME>[a2,b2]			
	3D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]			
	4D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]			
	5D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]			
	6D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]			
	7D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]			
	8D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]			
INT UINT	Single Tag	<TAGNAME>.00 - <TAGNAME>.15	<TAGNAME>	L / H	*1 *2
	1D Array	<TAGNAME>[a1].00 - <TAGNAME>[a2].15	<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array	<TAGNAME>[a1,b1].00 - <TAGNAME>[a2,b2].15	<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGNAME>[a2,b2]		
	3D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		

データ形		ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
DINT UDINT	Single Tag	<TAGNAME>.00 - <TAGNAME>.31	<TAGNAME>	*1 *2	
	1D Array	<TAGNAME>[a1].00 - <TAGNAME>[a2].31	<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array	<TAGNAME>[a1,b1].00 - <TAGLNAME>[a2,b2].31	<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGLNAME>[a2,b2]		
	3D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		
LREAL REAL	Single Tag		<TAGNAME>	*1 *2	
	1D Array		<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array		<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGLNAME>[a2,b2]		
	3D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		

データ形		ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
STRING	Single Tag	-	<TAGNAME>	-	*1 *2
	1D Array		<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array		<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGNAME>[a2,b2]		
	3D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		

*1 構造体の場合、構造体名を含んだ Tag Name になります。構造体変数は、表示器上では「構造体名 '\$Structure-member」として表示されます。（'\$' はデリミタ）

配列の場合、配列名を含んだ Tag Name になります。配列変数は以下のように表示されます。

- 1D Array : <TAGNAME>(a)
- 2D Array : <TAGNAME>(a,b)
- 3D Array : <TAGNAME>(a,b,c)
- 4D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d)
- 5D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e)
- 6D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e,f)
- 7D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e,f,g)
- 8D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e,f,g,h)

*2 Symbol Name の最大文字数はデリミタ、要素番号を含めて 255 文字です。

重 要

- 変数を使用する場合、変数データ（シンボルアドレス）をインポートする必要があります。
インポート手順と変数データ容量の上限については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

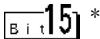
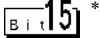
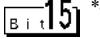
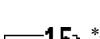
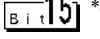
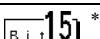
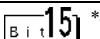
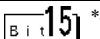
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「接続機器のタグを使用したい」

MEMO

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
 「表記のルール」

5.8 KV-X シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	R000000-R199915	R0000-R1999		*1
出力リレー				*1
内部補助リレー				*1
リンクリレー	B0000 - B7FFF	B000 - B7FF		
内部補助リレー	MR000000 - MR399915	MR0000 - MR3999		*2
ラッチリレー	LR00000 - LR99915	LR000 - LR999		
コントロールリレー	CR0000 - CR7915	CR00 - CR79		
ワークリレー	VB0000 - VBF9FF	VB000 - VBF9F		
タイマ(接点)	T0000 - T3999	-----		
カウンタ(接点)	C0000 - C3999	-----		
タイマ(設定値)	-----	TS0000 - TS3999		*3
カウンタ(設定値)	-----	CS0000 - CS3999		*3
タイマ(現在値)	-----	TC0000 - TC3999		*3
カウンタ(現在値)	-----	CC0000 - CC3999		*3
データメモリ	-----	DM00000 - DM65534		*4
拡張データメモリ	-----	EM00000 - EM65534		*4
ファイル レジスタ	現バング	-----		*4
	シリアル ナンバー システム	-----		*4
テンポラリデータメモリ	-----	TM000 - TM511		*4
コントロールメモリ	-----	CM0000 - CM7599		*4
リンクレジスタ	-----	W0000 - W7FFF		*4
ワークメモリ	-----	VM000000 - VM589823		*4 *5
インデックスレジスタ	-----	Z01 - Z10		*3 *6
デジタルトリマ	-----	TRM0 - TRM7		*3 *7

*1 KV-EP21V/KV-LE21V/KV-LE20V を使用する場合はビットアドレスが R00000 - R99915、ワードアドレスが R000 - R999 になります。

*2 KV-EP21V および KV-LE21V、KV-LE20V を使用する場合はビットアドレスが MR00000 - MR99915、ワードアドレスが MR000 - MR999 になります。

*3 32 ビットデバイスです。

- *4 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] [B i.15]
 [クリアしない] ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。
- *5 KV-EP21V および KV-LE21V, KV-LE20V を使用する場合 VM00000 ~ VM63999 の範囲となります。
- *6 Z11 および Z12 は、接続機器のシステムが使用しているため書き込みできません。
- *7 書込み不可

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.9 KV-X シリーズ(変数指定)

はシステムデータエリアに指定できます。

データ形		ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
BOOL	Single Tag	<TAGNAME>	-	-	*1 *2
	1D Array	<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]			
	2D Array	<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGNAME>[a2,b2]			
	3D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]			
	4D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]			
	5D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]			
	6D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]			
	7D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]			
	8D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]			
INT UINT	Single Tag	<TAGNAME>.00 - <TAGNAME>.15	<TAGNAME>	L/H	*1 *2
	1D Array	<TAGNAME>[a1].00 - <TAGNAME>[a2].15	<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array	<TAGNAME>[a1,b1].00 - <TAGNAME>[a2,b2].15	<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGNAME>[a2,b2]		
	3D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2].15	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		

データ形		ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
DINT UDINT	Single Tag	<TAGNAME>.00 - <TAGNAME>.31	<TAGNAME>	*1 *2	
	1D Array	<TAGNAME>[a1].00 - <TAGNAME>[a2].31	<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array	<TAGNAME>[a1,b1].00 - <TAGLNAME>[a2,b2].31	<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGLNAME>[a2,b2]		
	3D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1].00 - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2].31	<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		
LREAL REAL	Single Tag		<TAGNAME>	*1 *2	
	1D Array		<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array		<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGLNAME>[a2,b2]		
	3D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		

データ形		ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
STRING	Single Tag	-	<TAGNAME>	-	*1 *2
	1D Array		<TAGNAME>[a1] - <TAGNAME>[a2]		
	2D Array		<TAGNAME>[a1,b1] - <TAGNAME>[a2,b2]		
	3D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2]		
	4D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2]		
	5D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2]		
	6D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2]		
	7D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2]		
	8D Array		<TAGNAME>[a1,b1,c1,d1,e1,f1,g1,h1] - <TAGNAME>[a2,b2,c2,d2,e2,f2,g2,h2]		

*1 構造体の場合、構造体名を含んだ Tag Name になります。構造体変数は、表示器上では「構造体名 '\$Structure-member」として表示されます。（'\$' はデリミタ）

配列の場合、配列名を含んだ Tag Name になります。配列変数は以下のように表示されます。

- 1D Array : <TAGNAME>(a)
- 2D Array : <TAGNAME>(a,b)
- 3D Array : <TAGNAME>(a,b,c)
- 4D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d)
- 5D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e)
- 6D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e,f)
- 7D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e,f,g)
- 8D Array : <TAGNAME>(a,b,c,d,e,f,g,h)

*2 Symbol Name の最大文字数はデリミタ、要素番号を含めて 255 文字です。

重 要

- 変数を使用する場合、変数データ（シンボルアドレス）をインポートする必要があります。
インポート手順と変数データ容量の上限については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「接続機器のタグを使用したい」

MEMO

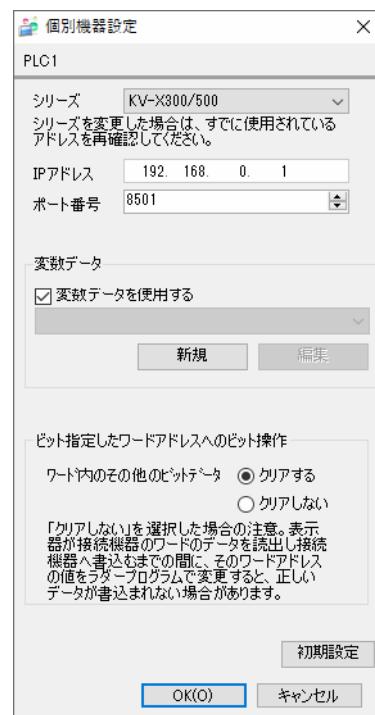
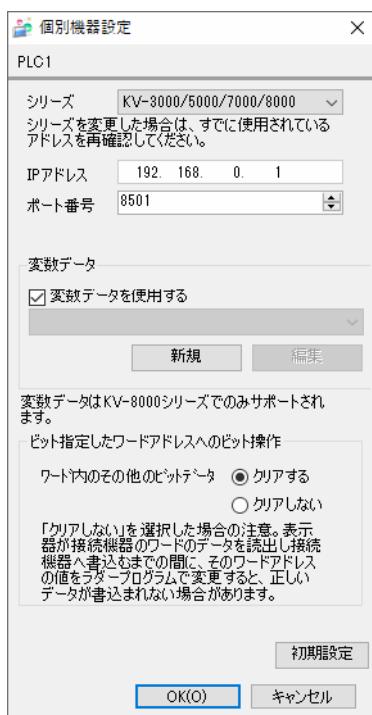
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」
- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
「表記のルール」

■ 変数データのインポート

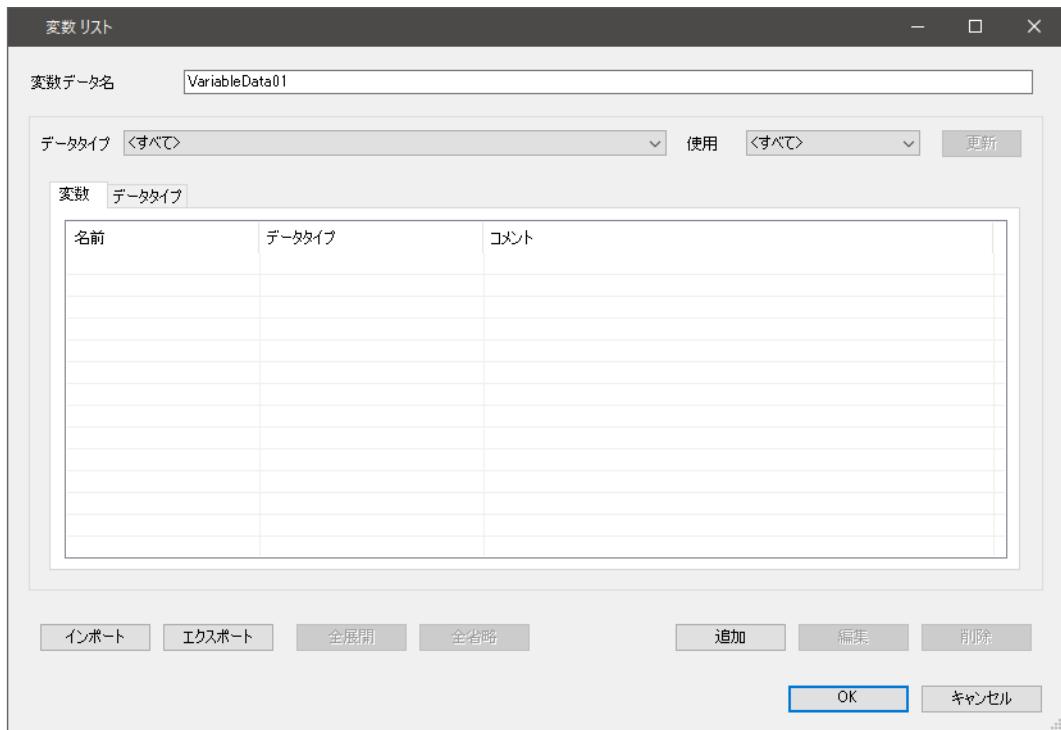
MEMO

- KV-8000 シリーズと KV-X シリーズのみ変数データのインポートが可能です。
ただし、インポートできるのはグローバル変数データのみです。ローカル変数データはインポートできません。

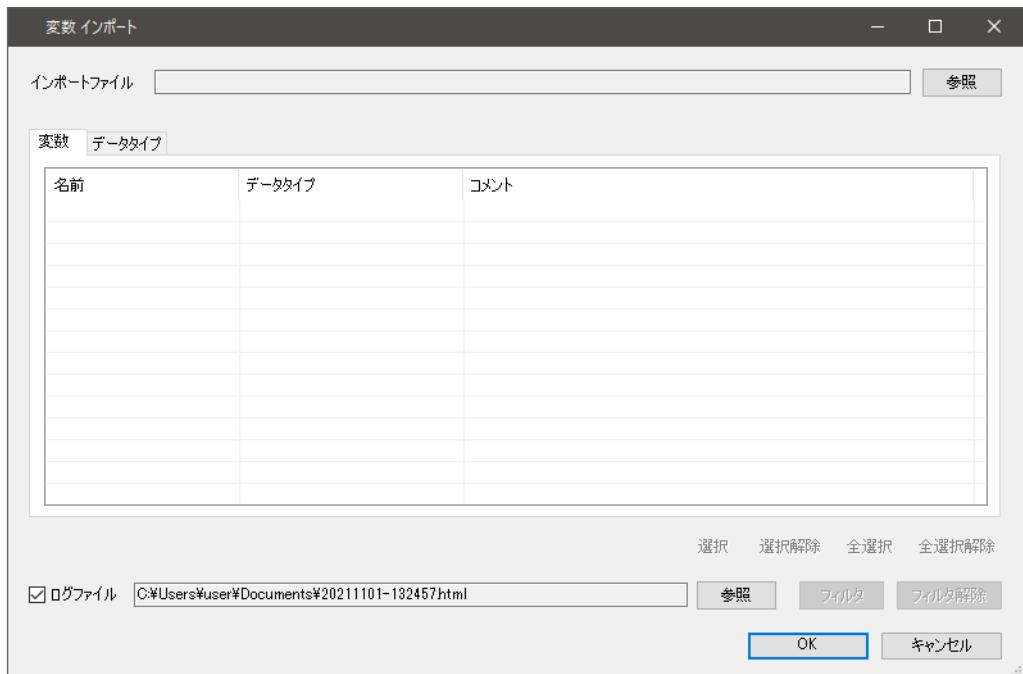
- 1 GP-Pro EX で [個別機器設定] ダイアログボックスを表示し、[シリーズ] から 「KV-1000/5000/7000/8000」 または 「KV-X300/500」 を選択します。
- 2 [変数データを使用する] にチェックを付けます。



3 [新規] をクリックし、[変数リスト] ウィンドウを表示します。

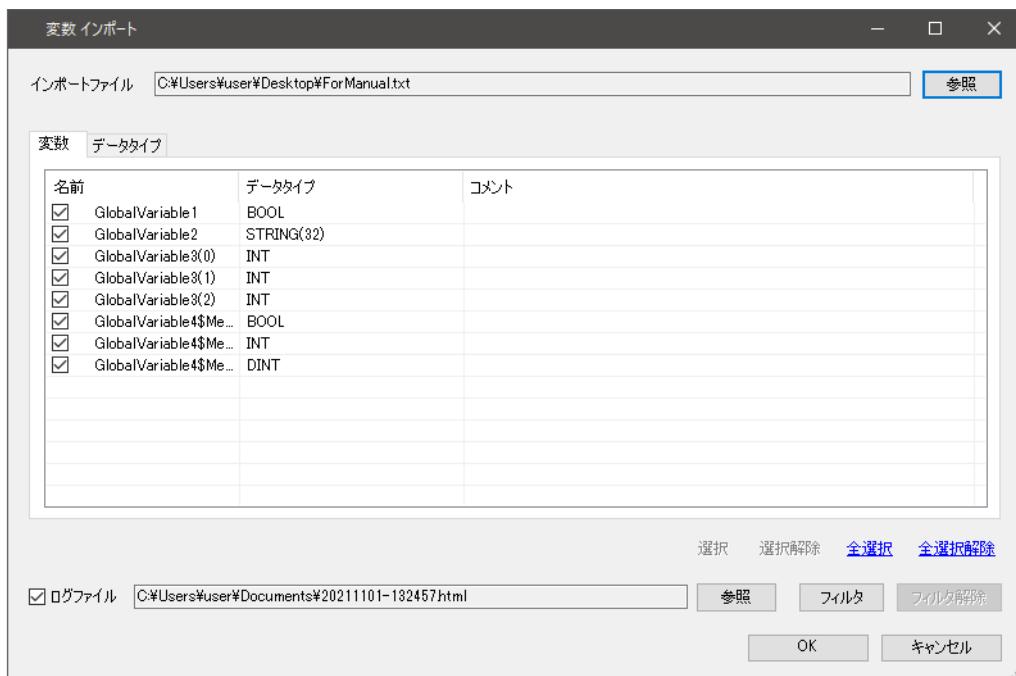


4 [インポート] をクリックし、[変数インポート] ウィンドウを表示します。

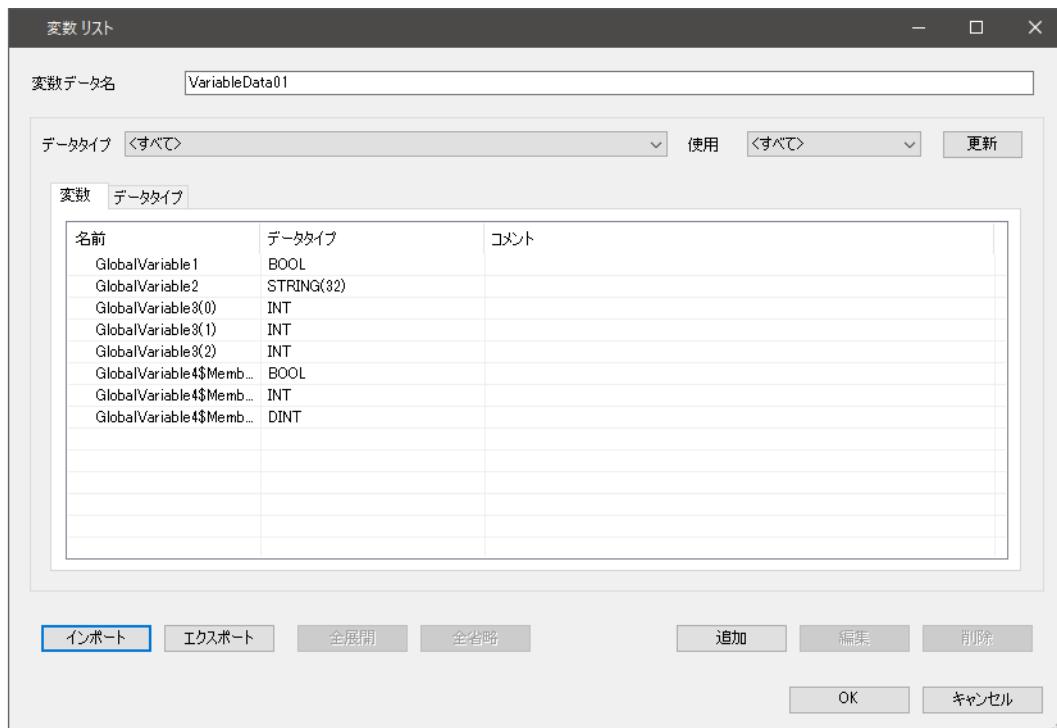


5 [インポートファイル] の [参照] をクリックし、変数データを選択します。

6 インポートする変数にチェックを付け、[OK] をクリックします。



7 インポートした変数を確認し、[OK] をクリックします。



6 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

6.1 KV-700 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	-----	0080	ワードアドレス
出力リレー			
内部補助リレー			
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
タイマ(設定値)	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ(設定値)	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ(現在値)	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ(現在値)	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス
高速カウンタ(現在値)	CTH	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタコンパレータ(設定値)	CTC	0066	ダブルワードアドレス

6.2 KV-1000 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入カリレー	----	0080	ワードアドレス
出カリレー			
内部補助リレー			
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
タイマ(設定値)	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ(設定値)	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ(現在値)	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ(現在値)	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
拡張データメモリ	EM	0010	ワードアドレス
拡張データメモリ	FM	0011	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0003	ワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス
高速カウンタ(現在値)	CTH	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタコンパレータ(設定値)	CTC	0066	ダブルワードアドレス

6.3 KV-3000/5000/5500 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入カリレー	R	0080	ワードアドレス
出カリレー			
内部補助リレー			
リンクリレー	B	008B	ワードアドレス
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
ワークリレー	VB	008C	ワードアドレス
タイマ（設定値）	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ（設定値）	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ（現在値）	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ（現在値）	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
拡張データメモリ	EM	0010	ワードアドレス
ファイルレジスタ	現バンク	0011	ワードアドレス
	シリアルナンバーシステム	0012	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0013	ワードアドレス
ワークメモリ	VM	0014	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0067	ダブルワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス
高速カウンタ（現在値）	CTH	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタコンパレータ（設定値）	CTC	0066	ダブルワードアドレス

6.4 KV-7000 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入カリレー	R	0080	ワードアドレス
出カリレー			
内部補助リレー			
リンクリレー	B	008B	ワードアドレス
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
ワークリレー	VB	008C	ワードアドレス
タイマ（設定値）	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ（設定値）	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ（現在値）	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ（現在値）	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
拡張データメモリ	EM	0010	ワードアドレス
ファイルレジスタ	現バンク	0011	ワードアドレス
	シリアルナンバーシステム	0012	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0013	ワードアドレス
ワークメモリ	VM	0014	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0067	ダブルワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス

6.5 KV-Nano シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入カリレー	R	0080	ワードアドレス
出カリレー			
内部補助リレー			
リンクリレー	B	008B	ワードアドレス
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
ワークリレー	VB	008C	ワードアドレス
タイマ（設定値）	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ（設定値）	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ（現在値）	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ（現在値）	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0013	ワードアドレス
ワークメモリ	VM	0014	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0067	ダブルワードアドレス
高速カウンタ（現在値）	CTH	0065	ダブルワードアドレス
高速カウンタコンパレータ（設定値）	CTC	0066	ダブルワードアドレス

6.6 KV-8000 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入カリレー	R	0080	ワードアドレス
出カリレー			
内部補助リレー			
リンクリレー	B	008B	ワードアドレス
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
ワークリレー	VB	008C	ワードアドレス
タイマ（設定値）	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ（設定値）	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ（現在値）	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ（現在値）	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
拡張データメモリ	EM	0010	ワードアドレス
ファイルレジスタ	現バンク	0011	ワードアドレス
	シリアルナンバーシステム	0012	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0013	ワードアドレス
ワークメモリ	VM	0014	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0067	ダブルワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス

6.7 KV-X シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入カリレー	R	0080	ワードアドレス
出カリレー			
内部補助リレー			
リンクリレー	B	008B	ワードアドレス
内部補助リレー	MR	0082	ワードアドレス
ラッチリレー	LR	0084	ワードアドレス
コントロールリレー	CR	008A	ワードアドレス
ワークリレー	VB	008C	ワードアドレス
タイマ（設定値）	TS	0062	ダブルワードアドレス
カウンタ（設定値）	CS	0063	ダブルワードアドレス
タイマ（現在値）	TC	0060	ダブルワードアドレス
カウンタ（現在値）	CC	0061	ダブルワードアドレス
データメモリ	DM	0000	ワードアドレス
拡張データメモリ	EM	0010	ワードアドレス
ファイルレジスタ	現バンク	0011	ワードアドレス
	シリアルナンバーシステム	0012	ワードアドレス
テンポラリデータメモリ	TM	0001	ワードアドレス
コントロールメモリ	CM	0002	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0013	ワードアドレス
ワークメモリ	VM	0014	ワードアドレス
インデックスレジスタ	Z	0067	ダブルワードアドレス
デジタルトリマ	TRM	0064	ダブルワードアドレス

7 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号：機器名：エラーメッセージ（エラー発生箇所）」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]）
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	<p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 デバイスアドレスは「アドレス：デバイスアドレス」のように表示されます。 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書込み要求でエラー応答を受信しました（受信エラーコード :2[02H]）」

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守 / ラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード (HEX)	エラー内容
E0	接続機器でデバイス定義していないデバイスにアクセスしました。 ^{*1}
E1	CPU ユニットでサポートされないコマンドが送されました。
E4	書込み不可デバイスに書込みを行ないました。

*1 タイマ（接点 / 現在値 / 設定値）、カウンタ（接点 / 現在値 / 設定値）、高速カウンタ（現在値）、高速カウンタコンパレータ（設定値）にアクセスする場合は、あらかじめラダープログラムでの設定が必要です。

■ 接続機器特有のエラーメッセージ

エラー番号	エラーメッセージ	内容
RHxx128	(Node Name): ID=(アダプタ ID) はリストに登録されていません	GP3000H 専用変換アダプタの ID 番号がリストに登録されていない場合、表示器の電源を ON になるとこのメッセージを表示します。GP3000H 専用変換アダプタの ID 番号をリストに登録してください。
RHxx129	(Node Name): 変換アダプタが接続されていないか、変換アダプタを使用しない設定になっています。接続または設定を確認してください。	GP3000H 専用変換アダプタが接続されていないか、[変換アダプタ] の [使用する] にチェックが付いていない場合、「リスト登録」にチェックを付けるとこのメッセージを表示します。GP3000H 専用変換アダプタの接続または設定を確認してください。

